

平成23年第1回

# 荒川区教育委員会臨時会

平成23年8月5日

於) 防災センター4階防災研修室

荒川区教育委員会

平成23年荒川区教育委員会第1回臨時会

- |        |  |  |
|--------|--|--|
| 1 日 時  | 平成23年8月5日  | 午後1時30分  |
| 2 場 所  | 防災センター 防災研修室   |  |
| 3 出席委員 | 委 員 長<br>委員長職務代理者<br>委 員<br>委 員<br>教 育 長   | 高 田 昭 仁<br>小 林 敦 子<br>青 山 侑<br>高 野 照 夫<br>川 寄 祐 弘  |
| 4 出席職員 | 教 育 部 長<br>教 育 総 務 課 長<br>教 育 施 設 課 長<br>学 務 課 長<br>社 会 教 育 課 長<br>社 会 体 育 課 長<br>指 導 室 長<br>南千住図書館長<br>統 括 指 導 主 事<br>統 括 指 導 主 事<br>指 導 主 事<br>指 導 主 事<br>指 導 主 事<br>指 導 主 事<br>書 記<br>書 記<br>書 記<br>書 記 | 新 井 基 司<br>入 野 隆 二<br>丹 雅 敏<br>平 賀 隆<br>佐 藤 泰 祥<br>泉 谷 清 文<br>武 井 勝 久<br>東 山 忠 史<br>新 井 裕<br>瀬 下 清<br>堀 越 勉<br>菅 原 千保子<br>吉 野 元 也<br>兵 頭 信 之<br>大 谷 実<br>浅 沼 佳 子<br>湯 田 道 徳<br>渡 部 由 香 |
| 5 傍聴者  |  | 10名  |

## 6 案 件

### (1) 審議事項

第33号 平成24年度から使用する中学校教科用図書の採択について

第34号 平成24年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について

### (2) 陳情

第1号 中学校社会科教科書（歴史分野）の採択に関する陳情

第2号 中学校社会科教科書（公民的分野）の採択に関する陳情

第3号 荒川区立中学校の教科書採択についての陳情書

### (3) その他

○委員長 それでは、ただいまから、荒川区教育委員会第1回臨時会を開催いたします。

出席委員数の御報告を申し上げます。5名出席でございます。

会議録の署名委員は、小林委員及び高野委員にお願いいたします。

なお、本日は傍聴者がいらっしゃいます。審議に先立ちまして、傍聴の皆様申し上げます。皆様にお配りいたしました傍聴券に記載の注意事項をよくお読みいただき、傍聴中において発言などにより議事を妨げることをないよう、お願い申し上げます。

教育長、あいさつをお願いいたします。

○教育長 今後4年間、荒川区の中学校で使用される教科書ですので、慎重な審議の上、採択をよろしくお願いいたします。

○委員長 それでは、本日の議事日程に従い議事を進めます。

初めに、議案第33号の「平成24年度から使用する中学校教科用図書の採択について」です。

荒川区教育委員会におきましては、この間、5月27日に開催した定例会において、今回の中学校教科用図書の採択方針及び手続を確認の上、以来、約2カ月にわたり、それぞれの委員が独自に各社の教科用図書の編集趣意書や東京都教育委員会による教科書調査研究資料など、さまざまな資料も活用しながら、実際の図書の読み比べを行うなど、公平な立場で、かつ熱心に各社の教科書の調査研究をしていただいていたところでございます。

また、個人としての調査研究に加え、3回にわたる勉強会を開催し、教科書展示会におけるアンケートや提出された陳情や要望書なども参考に、ともに勉強もしてまいりました。いずれの教科とも、それぞれに大変特色を持った教科書が多く、一本に絞るといことはなかなか難しいというのが委員の皆様の実感であったと思います。

本日は、それぞれの調査結果を持ち寄り、採択を行う場でございます。最後までどうぞよろしくお願いいたします。

本日の審議の進め方でございますが、お手元の議案に記載のとおり各教科・種目ごとに1つ1つ審議・採択を進めてまいります。その際、審議の冒頭で事務局より教科用図書選定調査会による調査内容の報告をしてもらい、その上で具体的審議に入るといった方法をとりたいと思います。

また、本日は指導主事の出席を求め、必要な場合には説明や報告を行わせたいと思っておりますが、異議はありませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 それでは、議案の審議に入ります。

議案第33号「平成24年度から使用する中学校教科用図書の採択について」を議題といたします。事務局より議案の説明をお願いいたします。

○指導室長 それでは、「平成24年度から使用する中学校教科書の採択について」、御説明申し

上げます。

平成24年度から使用する中学校教科書につきましては、文部科学省より示されております中学校教科書目録平成24年度使用に掲載されている66種類の教科書の中から9教科15種目について、それぞれ1種類の教科書を荒川区立学校教科用図書採択要綱に基づき御採択いただきます。

調査の経過について御報告申し上げます。先ほども申し上げました荒川区立学校教科用図書採択要綱に基づきまして、6月13日に教科用図書選定調査会を設置いたしました。この選定調査会は、学識経験者、地域関係者、保護者、学校関係者の計8名で組織され、全3回の協議を通して、すべての教科書に関して調査研究を行いました。

この間、選定調査会から各教科の専門性の高い本区の中学校長及び教員により組織される教科専門部会に調査を委嘱し、報告を受け、その内容を参考にしながら具体的な検討を行ってまいりました。机上に配付いたしました教科書選定調査会調査研究報告書に調査結果をまとめさせていただいております。

また、広く区民の皆様や各学校の教員等に直接教科書を見ていただき、たくさんの意見をいただくために教科書展示会を行いました。6月3日から16日までを東京都教育委員会が定めた特別展示、6月17日から7月6日までを法定展示として生涯学習センター、教育センター内で展示会を開催いたしました。

その間、延べ92名の入場者があり、22名の方からアンケートにより御意見をいただきました。このアンケートにつきましては事前に送付させていただいておりますが、改めて議場に配付させていただきました。これら教科書選定調査会調査研究報告書及び展示会のアンケート等も参考にさせていただきながら御審議いただき、採択について、よろしく願いいたします。

以上でございます。

**○委員長** ただいまの説明にありますように、採択の対象は9教科15種目となります。議案書に記載の順に、15種目の教科用図書について審議・採決を行い、採択をしていきたいと思っております。

審議・採決の方法は、先ほど了承いただきましたように、種目ごとに、事務局より改めて教科用図書選定調査会による調査内容の報告を受けた後に、各委員より報告内容に対する質疑や各社の教科用図書に対する意見、候補とすべき図書の推薦などについて御発言をいただき、協議をさせていただく中で、最終的に大方の方向がまとまったと判断された段階で採決を行います。

最終的に委員の意見が分かれ、複数の候補が残った場合には、その複数の候補について、議案に記載されている発行者の順に、その発行者の図書がふさわしいと判断される委員に挙手をしていただくという形で採決をしたいと考えております。

その場合、本日の出席委員が私も含め5名ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法

律第13条の規定により過半数の3票を獲得した発行者の図書が採択ということとなります。

なお、仮に可否同数の場合は、同じく地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条の規定により、委員長である私が決することとなります。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 ありがとうございます。皆さんの同意が得られましたので、そのように取り扱うことといたします。

また、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第5項の規定により、自己、配偶者もしくは三親等以内の親族の方が従事する業務に直接の利害関係のある事件については、その議事に参与することができないこととなっていますので、よろしく願いいたします。

それでは、順に、教科「国語」、種目「国語」から審議・採決をいたします。

○青山委員 はい。

○委員長 青山委員。

○青山委員 種目のうち、国語と書写の種目につきましては、私は、エントリーしている教科書会社のうちに、過去に自分が、教科書ではないのですが、書籍を出版した会社がありますので、国語と書写の種目については審議及び採決から抜けさせていただき、この間退席をさせていただきたいと考えますので、よろしく願いいたします。

○委員長 ただいま、青山委員から一時退席の申し出がございました。皆様、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

〔青山委員退席〕

○委員長 それでは、指導室長より、国語について説明をお願いいたします。

○指導室長 それでは、教科「国語」、種目「国語」について御報告申し上げます。

まず、「東京書籍」、＜内容＞現代文と古文が明確に分けられており、指導計画が立てやすい配列である。＜表現＞ページに色を付けたり、学年進行に合わせて文字の大きさを変えたりするなど、なじみやすい編集となっている。＜構成＞各単元にて季節や内容を示す写真や詩を掲載するとともに、場面の読解、話し合いを行うように構成している。＜地域性＞「奥の細道」の芭蕉旅立ちの場面・「レモン哀歌」（高村光太郎）が掲載されている。＜使用上の便宜＞「言葉の力」について系統的に学習できるように工夫している。

「学校図書」、＜内容＞「坊ちゃん」「黒い雨」等、文学的な文章を多く載せている。＜表現＞写真や図表の掲載を控えているが、見やすく読みやすい内容となっている。目次は領域ごとに色分けして示している。＜構成＞巻末に古文を掲載し、内容が高度である。単元ごとに読解、話し合い、批評等を加えるように構成している。＜地域性＞「奥の細道」の芭蕉旅立ちの場面・「握手」（井上ひさし）の舞台は上野公園である。＜使用上の便宜＞A5サイズで、文字も若干

小さいが、教材ごとのねらいを目次に明記する工夫がある。

「三省堂」、＜内容＞ディベート・プレゼンテーション等、思考力や表現力を高めるための学習を意識した内容となっている。＜表現＞文字が大きく、写真や図表を多く掲載している。文法や漢字は各単元末に規則的に配列している。＜構成＞詩、古文から導入している。単元ごとに相違点、共通点をまとめたり、意見を交流させたりする工夫がある。＜地域性＞「奥の細道」の芭蕉旅立ちの場面・「冬が来た」（高村光太郎）が掲載されている。＜使用上の便宜＞2分冊構成となっており、読書案内を付するとともに、資料集として活用ができるように編集されている。

「教育出版」、＜内容＞単元ごとに漢字学習がまとめられており、習熟を高める工夫がある。＜表現＞写真や図表の掲載が適切である。漢字・言語活動に関する項目数が多い。＜構成＞観点の表記が明確である。単元ごとに読解、話し合い、自分の考えを発表する場の工夫がある。＜地域性＞「奥の細道」の芭蕉旅立ちの場面・「レモン哀歌」（高村光太郎）が掲載されている。＜使用上の便宜＞言葉に関する教材を指導しやすいように整理し、簡潔に扱っている。記入式学習シートを付している。

「光村図書出版」、＜内容＞現代文と古文を明確に分けている。筆者の考えを読み取ったり、自分の考えを表現させたりする工夫がある。＜表現＞写真を多く取り入れ、親しみやすいイラストを掲載するなどの工夫がある。＜構成＞文学的文章・説明的文章がバランスよく構成されている。単元ごとに読解、話し合いの場を工夫している。＜地域性＞「奥の細道」の芭蕉旅立ちの場面・「握手」（井上ひさし）が掲載されている。＜使用上の便宜＞学んだことが習得できるように演習問題を充実させている。1年生の初めに学習のガイダンスを付している。

全体に関する意見。荒川区は学校図書館の充実を重点化して指導しており、その観点で学習できるものが好ましい。国語の使い方や、様々な文章などの内容を正確に理解する能力を高めることができるものが好ましい。話す相手や目的など、多様な場面での状況を考えて自分の考えを表現したり、記述したりする能力を育成できる教材が好ましい。古文・漢文を含め、言語文化（能・狂言・歌舞伎等）に関する内容が充実し、生徒にとって学習意欲を高めるものが好ましい。

以上でございます。

○委員長 ただいま、教科「国語」、種目「国語」について説明がありました。御審議をお願いいたします。高野委員。

○高野委員 それぞれ非常に特色のある素晴らしい教科書が揃っています。国語というのは、やはり理解を十分にさせて、思考をさせ、表現力を養うということが極めて重要なことだと思います。国語は、各教科を理解するための基本です。しっかりとしたものがが必要です。ですから、十分に基本的な知識を得させるために、重要科目であり、読んで理解することが大切です。

東京都のほうも、荒川区の教科書選定調査会に関しましても、思考力や想像力を養って、言語

活動を活発させるのだということを強調しております。それには、まず読むこと、そして理解すること、聞くこと、書くこと。読む・聞く・書く、そして、十分理解して自分の思考能力を高めるといふ点から考えますと、幾つか上げられます。

1つは、東京書籍の場合ですが、読むことに重点を置いて詩歌を含めた文学的作品がたくさんあり、また聞き取って整理しようとして企画されている点も、大変いいと思いました。そして、もう1つ、学校図書も同様でありましたけれども、読む力をつけるように工夫されている。また、A5版で家庭学習についても言及しているので、ほかの教科書のサイズが大きいものですから、小さくてハンディで、いいかなとも思いました。

その前に教育出版、バランスよくて大変いいと思ったのですが、また、光村出版も大変いいのですが、やはり、さきに言いましたように、読むことが一番大切であると、そして理解することと考へまして、読むこと・聞くこと・書くこと、バランスよく書かれているという点で、思考力・表現力を高めるには、みずから書かせるところが多いほうがいいだろうと判断しました。

その点、体験や感想文、手紙など、自分で書くように、学びの方法がよく指導されている三省堂が最も今度の選定にふさわしいのではないかと、判断した次第です。

○委員長 全部いいけれども、三省堂がいいという御意見でございました。

○高野委員 もう1つ、三省堂は、地域性の面も十分に書かれておりました。地域と係わりの深い素材、奥の細道や、それから高村光太郎先生など、とても文学的なところもよくできておまして、そういう点からも荒川区にはふさわしい本であろうと考へた次第です。

図書においては、少し難しいところもあるかなと思ったのですが、学校図書館の充実重点化で、荒川区の小学生は、読むことに対しては非常になれています。なれているというか、読み込んでいます。さらに大きな展開を持っていくという点でも三省堂を推薦いたします。

○委員長 奥の細道は全部の教科書に出ています。

○高野委員 そうですね。

○委員長 小林委員。

○小林委員 教科の中で、教科書が少ない場合については個々にコメントをさせていただいて、教科書の種類が多い場合には、荒川区に特に適しているというものを何種類か取り上げてコメントをさせていただきたいと思ひます。

国語ですが、新学習指導要領の基本的な考へ方としては、「確かな学力」というのがあると思ひます。この「確かな学力」というのは、基礎的な知識をつけるということと、あと、表現を重視しているということだと考へております。

そういった基準から言ひますと、国語が全部で5種類あるのですけれども、荒川区で使用するという点から、特にすぐれていると考へることができる教科書としては、光村図書出版、教育出

版、三省堂があります。

まず光村図書出版ですが、1点目、この教科書を見せていただきますと、後ろの演習部分が非常に充実しておりまして、生徒に多角的に考えさせることができる、そういった特色があります。2点目ですが、文学的文章、あるいは説明的文章に非常にすぐれた内容が多く、バランスよく構成されているという点があります。

次に教育出版でございます。教育出版を見せていただきますと、1点目、各単元において何を学ぶのかという単元の表記が非常に明確です。例えば「道しるべ」というものがあり、問いも非常に明確になっています。2点目として、学習しやすさ、また、指導のしやすさというのが指摘できます。

最後に三省堂ですが、三省堂は幾つか特色を指摘させていただきます。

まず1点目、三省堂は非常にオーラル、実際に声に出して読むことを重視しています。例えば三省堂の場合、詩歌の割合が多いのですが、これを声に出して読んでみようという指示がされております。音読というのは、学習の定着を図る上で非常に重要で、近年の脳科学の研究成果からも「音読は重要である」ということが指摘されています。

2点目として、教材の割合の中で、三省堂は書くこと、考えて書くといった表現力を向上させることを重視しております。これは、現在非常に話題になっていますPISA型学力に応じたテキストであると言えます。

3点目ですが、三省堂は資料が分冊になっておりまして、この資料も、非常に充実した内容がございまして、子供の興味・関心に応じて、あるいは授業の進行状況に応じて、適宜資料を使いながら豊かな授業が展開できるといった、そういった良さがあるかなと思っております。

最後に、4点目としまして、荒川区では学校図書館を使つての読書指導を非常に重視しているわけです。その点、三省堂は本の紹介が非常に多く、また、その本にどういった特徴があるかといった紹介文も掲載されております。その意味で、図書館に行つて、ぜひこの本を読みたいという気持ちにさせてくれ、読書指導に適しています。

以上から3社を比べますと、総合的に判断して、国語の教科書は三省堂が荒川区には適していると考えております。

○委員長 様々な観点から三省堂がよろしいという御意見でございました。

教育長。

○教育長 教育出版は読むこと、話すこと、聞くこと、書くこと、ということで、伝統文化と言語という大きな単元ごとにしっかり1年、2年、3年とまとめられていて、色分けもよくバランスがとれています。

また、習熟度を高める工夫があり、言語活動に関する項目が45となっています。一方、三省

堂の教科書は言語活動に関する項目が他社の教科書に比べて218項目もあり、話すことや聞くこと、書くこと、言語活動に関しては、本区の生徒にとってふさわしい教科書ではないかなと思います。

また、本区は23区の中のリーダー区としての図書館活動も充実しています。そういう意味で、各単元の中で、後ろに、関連する書籍の読書案内があり、読書活動の活性化につながるということが期待できると考えます。

それから、本区の平成22年度の学力向上のための調査結果をみると、読書活動を推進したおかげで、普通は1年、2年、3年に進級するとだんだん授業がわかっているかどうかその比率が低下するのですが、荒川区においては、国語について中学校3年生は、70.8%の子が授業がわかっている。中1では70.3%、中2が70.4%という形で、普通はだんだん下がってくるのが、国語に関しては上がってきているのです。

そういう意味では、読書活動を推進するということがいかに大切かということを経験の中でつくづく感じました。

他の教科書もすばらしい教科書になっています。例えば光村出版に関しては、本当に1年生の初めに学習するガイダンスが記してあって、演習問題をさせていくということに関しては本当によくできています。それから、写真も親しみやすく、そういう面では本当に親しみやすい本だなということを感じました。

本当に各社、各々特色があり、甲乙つけがたいという中で、先ほど申し上げましたように、荒川区は学校図書館推進区であるということを経験の条件として上げて、三省堂とさせていただきます。

**○委員長** 御三方とも三省堂がよいという御意見でございました。

私自身は、三省堂の教科書は、活字も大きくて見やすい。ただ、資料がとても量が多くて重いかなとも思ったのですが、この調査研究報告書に「古文・漢文を含め、言語文化（能・狂言・歌舞伎等）に関する内容が充実し、生徒にとって学習意欲を高めるものが好ましい」というのが書かれておりますが、この資料編のところは1年、2年、3年ともそれぞれに言語文化のことが全部扱ってありまして、とてもこれはいいなと思いました。

ほかに意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

**○委員長** それでは、私も含めてすべての委員の御発言がありましたので、他に御発言がないようであれば、採決に移ります。

ただいまの審議を伺っていて、最終的には大方の委員が三省堂がよいという御意見でございました。改めて三省堂を採択することについてお諮りいたします。種目「国語」について、三省堂

を採択することに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 異議なしとのことですので、教科「国語」、種目「国語」は三省堂を採択することに決定しました。

続いて、教科「国語」、種目「書写」について審議・採決をいたします。

指導室長より書写について説明をお願いいたします。

○指導室長 それでは、教科「国語」、種目「書写」について御説明申し上げます。

「東京書籍」、＜内容＞硬筆を重視した内容になっており手本が2ページに渡って掲載されている。書の表現について鑑賞させる工夫がある。＜表現＞平仮名が「あいうえお」で掲載されている。視覚的に関心を高めるよう工夫している。＜構成＞1年と2・3年が分冊になっており、手本も大きく見やすい。教材ごとに振り返りの場面を設定している。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞2・3年の教科書は資料集としても活用できる。綴じ方は中綴じであり、背表紙は無い。

「大日本図書」、＜内容＞硬筆の練習を教科書に書き込めるように工夫しており、学習への配慮がある。古文の臨書がある。＜表現＞平仮名の成り立ちを説明しており理解しやすい。＜構成＞1年と2・3年が分冊の構成となっている。各単元で学習のねらいを明記している。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞手本が特徴的な書体となっている。綴じ方が中綴じであり、背表紙は無い。

「学校図書」、＜内容＞毛筆の手本にポイントが示されており学習しやすい工夫がある。＜表現＞手本が美しく掲載されており、写真やイラストも見やすい。単元のねらいを書き込ませる工夫がある。＜構成＞他の教科や領域の学習に生かせる手法をきめ細やかに紹介してある。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞3年間の学習内容を系統的に1冊にまとめて工夫しており、指導しやすい。中綴じではなく、背表紙がある。

「三省堂」、＜内容＞文字を総合的に学習するように編集している。特に毛筆については手本となる教材が充実している。＜表現＞写真やイラストの質・量ともに適切であり、朱墨で筆脈が分かるように示す工夫が施されている。＜構成＞毛筆と硬筆をバランスよく配置しており、段階的に技能が向上するよう構成されている。1年と2・3年が分冊である。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞手本を毛筆字形例として大きく掲載しており、実際の書写に役立つ工夫がなされている。

「教育出版」、＜内容＞手本の解説が丁寧であり、手順を確認しながら指導を進めることができる。王羲之の書を掲載している。＜表現＞書写の姿勢や用具の使用方法など、具体的に解説しており分かりやすい。朱墨で筆脈が分かるように示している。＜構成＞毛筆と硬筆のバランスが

よく、字例となる手本も大きく見やすい。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞手本と説明が見開きになっているのでポイントを押さえて学習することができる。中綴じであり、背表紙は無い。

「光村図書出版」、＜内容＞3年間を通して毛筆と硬筆を幅広く学習することができる。臨書に親しませる工夫がある。＜表現＞書写やイラストをふんだんに用いて親しみやすく取り組めるように工夫している。＜構成＞3年間で1冊にまとめて編集しており、基礎・基本を習得した上で日常生活に生かそうとする取り組みがある。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞教科書に直接書き込むなど、進んで学習できるように編集されている。中綴じであり、背表紙は無い。

全体に関する意見。字形を整えるとともに、文字の大きさや配列などについて理解できるよう編集されているものが望ましい。基礎・基本を重視するとともに、行書の書き方や特徴について生徒が主体的に学ぼうとする工夫がある教科書が望ましい。楷書・行書を学ぶことで、書写に関する技能が身につく、伝統的な文字文化を習得できる構成がよい。

以上でございます。

○委員長 教科「国語」、種目「書写」について説明がありました。御審議をお願いいたします。

○高野委員 書写ということから考えますと、まず一番重要なことは字形を整える。字の大きさや配列などが非常にバランスよく、保たれており、理解しやすいということを私は重点として考えました。特にバランスを重視し、手本が美しく掲載されているということ、そして、学習への配慮があること。

その中で中学生の書写ということを考えますと、やはり重要なことは、バランスは当然ですけれども、日常生活に使われているもの、例えば、手紙を書く場合、あるいは文書を書く場合、バランスよくきちっと書けるように、そして美しく書くこと、そういう点に重点を置きました。

そういう点から見ますと2つ、大日本図書と三省堂が挙げられます。三省堂は特に、国語の教科書と同じものがあるのかなという考えもありまして、前述の箇所を注目しながらも比べたのですが、三省堂は、書く字がこんなふうにだんだん経緯的にするように書かれている。

そして、上達ぶりを特に赤い墨で、それがわかるように直してあり、筆脈がわかるように配慮され、学習しやすく工夫されていると感じました。

一方、大日本図書ですが、先ほど私が目的としたこと、十分に実生活に役立つようバランスよく美しく書くということを強調されているような印象を強く持ちました。特に平仮名の成り立ち、そういう点についてもよく書かれていましたので、草書まできちんと結びつくという点で、私は大日本図書を推薦したいと思います。

○委員長 小林委員。

○小林委員 6社について検討をさせていただきました。荒川区の教科書選定調査会の調査研究報

告なのですが、先ほど御説明があったのですけれども、それを拝読させていただきますと、1点目として「確かな基礎を学ぶ」ということ、2点目として「生徒の意欲を高める教科書がふさわしい」と読み取ることができると思います。

そこから判断しますと、光村図書出版、東京書籍、大日本の三社がよいので、この3社について重点的にコメントをさせていただきます。

まず1社目、光村図書出版ですが、基礎をきちんと習得した上で、さらに日常生活に生かそうという工夫、例えばノートのまとめ方、願書の書き方、附せんの活用法などがございます。

2社目、東京書籍ですが、文字を書くことを科学的に分析しようという内容がございます。例えば筆記具、鉛筆、ボールペンについて調べてみようであるとか、あるいは楷書と行書の違いについて科学的に分析しようといった内容がございまして、興味深いと思います。

また、東京書籍ですが、「絵葉書を出そう」、また、「電子メールを出そう」といった日常生活に役立つ内容が盛り込まれております。

3社目、大日本図書を見せていただいたのですが、この大日本図書の特徴としまして、どのように文字を書けばバランスのよい美しい文字を書けるかという内容が充実しています。東京都の教科書調査検討資料で見えていきますと、大日本図書について、字形を整え、文字の大きさ、配列を取り上げている項目数は18で最も多いと指摘されております。

また、荒川区の教科書選定調査会の調査研究報告でも、「字形を整えるとともに文字の大きさ、配列などについて理解できるよう編集されているものが望ましい」とあります。

現代社会を考えてみますと、メールを書くといった、PCあるいは携帯でも文字の入力が非常にふえているわけです。日常的に実際に文字を書く機会が減少しています。だからこそ書写におきましては美しい文字を書くことにこだわりたいと思っております。その意味で、私は、荒川区では大日本図書がいいと考えます。

○**委員長** お二方とも大日本図書がいいということでございましたけれども、教育長はいかがですか。

○**教育長** すべてを見させていただきました。三省堂は、朱墨で筆脈がわかりやすく示されています。また、硬筆が先で、毛筆が後に来て、わかりやすく分けられているので使いやすいのではないかなという、荒川区の生徒の実態に合っているのではないかという感じがしました。

学校図書の場合は、書写をいろんな学習の中に生かそうという場面、特に現在、職場体験学習の事前のときの、どういうふうにあいさつ文を書いたらいいとか、あるいはまた、修学旅行の後の壁新聞をどういうふうにつくったらいいとか、そういう自分たちが体験した日々の学習活動の中で、どのように文字を、毛筆をまた生かしていくかということに関してはよくできているなという感じがしました。

また、教育出版については、手本が、すごく解説が丁寧であり、先生の指導がしやすいのではないかという感じがしました。

そういう中で、特に私は、3年間通して書写を学ぶ中で、子供たちには、分冊になったり、まとったりというのがあるのですが、忘れ物が多いという状況の中では、1年、2年、3年と分冊であったほうがいいのかと、また、逆に1冊の本のほうがいいのか。また、使用している中で墨をこぼして汚してしまったときなどは、やはり分冊にしてよかったとか、いろんな状況の中で評価があると思います。

私は分冊のほうがいいのではないかなと感じるのですが、各教科書会社の工夫もあります。そういう中で、特に1年生の出始めがペンか毛筆かということはやはり関係してくると思います。私は、三省堂を推薦します。

以上です。

○委員長 教育長は三省堂がいいという御意見でございました。

私は、この大日本図書の教科書1ページ目に象の大群が載っていきまして、その象という字が象形文字から始まって今の象という字に至るのを表紙に、どっきりとしながら見ました。また、16ページのところの「行書と仮名の調和を学ぼう」という、「緑を守れ」という文字が、薄墨で筆の穂先がこういうふう動くのだよというのが書いてあるのがとても印象に残りました。全体のバランスと、平仮名の「いろはにほへと」の、どの漢字が「いろは」になってくるのかというのが書いてあるのがほかの教科書にもあるのですけれども、私は、この大日本図書がよろしいのではないかと考えました。

ほかに御意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 ないようでしたら、私も含めてすべての委員の御発言がありましたので、ほかに発言がないようであれば、採決に移ります。

書写のただいまの審議を伺っていて、最終的には大日本図書が3人、三省堂が1人ということでございます。改めて大日本図書を採択することにお諮りいたします。種目「書写」については大日本図書を採択することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 異議なしとのことですので、教科「国語」、種目「書写」は大日本図書を採択することと決定いたしました。

○教育長 私は三省堂ですから。

○委員長 1人だけ三省堂でございますが、3人が大日本ということで、大日本に決定いたしました。

それでは、青山委員をお呼びください。

〔青山委員着席〕

○委員長 青山委員が着席されましたので、続いて、教科「社会」、種目「地理的分野」を審議・採決をいたします。

指導室長より地理的分野について説明をお願いいたします。

○指導室長 教科「社会」、種目「地理的分野」について御説明申し上げます。

「東京書籍」、＜内容＞「みんなで考えよう」は、学習を振り返り各地域の特色についてキーワードを使って簡潔に整理する内容になっている。＜表現＞写真が多く見やすい。地図、グラフ等も見やすい色使いである。＜構成＞「スキルアップ」でグラフ活用の技能を高められる。東北は伝統文化を中心に扱っている。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞「地域の調査」はテーマの決め方から発表まで指導があり、自ら調べ学習をする展開になっている。

「教育出版」、＜内容＞「現代社会の課題を考えよう」があり、自ら考える、みんなで考えるという内容になっている。＜表現＞産業を中心とした考察ではグラフが十分にあり、現実の社会について読み取るようになっている。＜構成＞多文化共生の視点から現代社会の課題を考える工夫がある。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞イラストを使って問題を提起しており、箇所数が多い。

「帝国書院」、＜内容＞よくまとまっている。「地域の調査」は調べ学習になっている。＜表現＞地図、図、イラストのバランスがよく、すっきりと見やすい。2つの写真を比べて考える視点も書いてある。＜構成＞「学習のまとめ」があり、自分で確認できるようになっている。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞各ページの「チェック&トライ」は具体的な学習活動が設定されており、指導しやすい。

「日本文教出版」、＜内容＞「災害と防災」が詳しく、津波の被害についても触れている。＜表現＞「日本の地方の様子」は、導入ページにそれぞれの県の様子がよくわかる地図やグラフが使っている。＜構成＞表題の配列が分かりやすい。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞用語・事項が多い。

全体に関する意見。資料を見て、自ら問題に気付き、調べて考える能力を育成できる展開になっているものが好ましい。地図や写真、グラフ等が見やすく、資料活用能力を高めることができるものが好ましい。「身近な地域の調査」はどれも他地域を扱っており、荒川区の副読本を使って学習することになる。

以上でございます。

○委員長 教科「社会」、種目「地理的分野」について説明がありました。御審議をお願いいたします。小林委員からどうぞ。

○**小林委員** 地理ですが、選定のポイントとして、まず第1点目ですが、資料に基づきながら考える能力の育成ができるということを上げたいと思っております。荒川の教科書選定調査会の調査研究報告にも地図、写真、グラフなどの資料を使って調べ、考える能力を育成できることが望ましいとあります。

それと、選定のポイント2点目ですが、調べ学習が充実しているということです。これは、新しい学習指導要領の基本的な考え方です。

以上から考えると、4社の中で検討させていただいたのですが、東京書籍か、帝国書院が望ましいと思います。

以下、2つにつきましてコメントを述べさせていただきたいのですが、まず、東京書籍ですけれども、1点目として、発問が非常に多くされておりまして、また、段階的に思考を深める発問がされていることが指摘できます。

2点目ですが、東京書籍は写真が非常にきれいで、見やすく、生徒の興味を引くと言えます。

3点目、調べ学習について東京書籍を見てまいりますと、インターネットの活用方法であるとか、主な機関のアドレス、統計資料を活用したグラフのつくり方などがございまして、非常に学習上便利です。

それと、東京書籍、4点目ですが、領土問題については、明確に記述していると言えます。

それに対して、帝国書院は、非常に資料が充実しています。帝国書院ですが、地図帳をつくってきた実績があるだけございまして、分布図といった図表が特に工夫をされておりまして、この点は本当に素晴らしいです。

帝国書院、2点目ですが、地域学習に非常に適しておりまして、帝国書院、東京都の八王子を地域学習の事例として取り上げています。その点でも、荒川の生徒にとりまして同じ東京の地域ということで、なじみの深い内容ではないかと思えます。

帝国書院、3点目ですが、教科書選定調査会の調査研究資料を見せていただきますと、帝国書院はよくまとまっているし指導しやすいと記述がされておりまして。

以上から総合的に判断いたしまして、帝国書院がいいと思います。

○**委員長** 帝国書院か東京書籍で、帝国書院がいいというお話でございました。青山委員。

○**青山委員** 今、小林先生からも話がありましたけれども、調査研究報告の中で指導しやすいからという表現が帝国書院の中で使用上の便宜の報告で表現をされています。そもそも教科書の場合には、子供にとってわかりやすいということと、教師にとって指導しやすいということと、当然、両方が必要なのだと思いますけれども、あえてここで「チェック&トライ」が各ページにあつて、具体的な学習活動が設定されていて指導しやすいと。そういう指摘を、この会社の教科書について調査研究報告の中で選定調査会が、こういう評価をしたということの内容について指導室長の

ほうでちょっと説明していただければと思うのですがいいでしょうか。

○指導室長 はい、よろしいでしょうか。今、お話がございました帝国書院の「チェック&トライ」でございますが、1時間の授業を想定した見開きページごとに「チェック&トライ」というのを設定されております。チェックにつきましては、既に習った事柄を確認するといったような問いになっております。

また、トライの部分につきましては、その既に習った事柄を活用して課題を解決するというような問いかけになっておりまして、新しい学習指導要領の知識を習得する、また、それを活用して探求していくといったような趣旨のように、対応しているようなものになっているかと思えます。

○青山委員 ということは、ほかの教科書の評価は別として、こういう編集の仕方というのは全般の教師にとっては指導しやすいという評価が選定調査会の評価だと、理解してよろしいですか。

○指導室長 はい、それは、その指導しやすいという文言につながっているかと思えます。

○青山委員 もう1点、地域の調査についてのコメントが、会社別でいうと、東京書籍と帝国書院についてあります。これは教育基本法改正後、郷土愛を教育目標の1つとして新たに加えた、そういう変化があったと思えます。もともと郷土愛は教育の目標だったと思うのですが、あえて改正教育基本法には明定されたということになります。そういう意味でいうと、荒川を知ることから荒川に対する郷土愛がはぐくまれると、そういう一面があると思えます。

全体に対する意見の中では、身近な地域の調査では、いずれも他地域を扱っていると。荒川の分については副読本を使いますと。そういうものがあって、これはある意味、どこの区町村とも当然の話で、その区が、必ず取り上げてあるということはないと思うので、これはやむを得ないと思うのですが、だとすると、今度は調べ学習とか、この地域の調査をどうするかという話になってくるだろうと思えます。そういった意味で、この選定調査会の報告の中で、地域の調査について、東京書籍と帝国書院について、あえて評価をしたということの具体的な内容について説明していただければと思えます。

○委員長 指導室長。

○指導室長 地域の調査につきましては、世界の諸地域を学習した後に、世界のさまざまな地域の調査というのが設定されておりまして、日本の諸地域を学習した後は、身近な地域の調査といったようなものが位置づけられております。

これは、先ほど申したように、基本的な技能・知識を活用して、実際にさまざまな地域を調べていく。探究型の学習を地理の学習の中で行っていきこうといったような方向性になっておりますが、具体的には、東京書籍では、地域の調査を7つのステップに分けて行うように指導をいたします。情報を集める、テーマを決める、仮説を立てる、調査計画を立てる、調査をする、考察の

まとめ、発表というような7つの段階に分けて説明をしています。

帝国書院につきましては、世界のさまざまな地域の調査では4つの段階。1つはテーマと課題を決める、2つ目、調べる、3つ目、まとめる、4つ目、発表する、深めるといったような4つの段階です。身近な地域の調査では、5つの段階、テーマを決める、仮説を立てる、調べる、仮説を確かめる、話し合う、発表するといったような5つの段階というようなことで、取り上げ方がちょっと違っておりますけれども、段階を追って調査をするといったようなことが、ある程度に指導されております。

以上でございます。

○委員長 はい、よろしいですか。

○青山委員 はい。

○委員長 結論的にはどの教科書がいいと考えるのでしょうか。

○青山委員 帝国書院。そのほか、今、指導室長とやりとりをした以外の出版社を、教育出版の考える工夫だとか、日本文教出版の、特に時期的にいても災害と防災が詳しいと、そういう評価があって、いずれも捨てがたいのですが、基本的には、やはり各ページの「チェック&トライ」の評価と、それからもう一つは、やはり改正教育基本法の教材の基礎とされて、特に地理では、地域の調査を調べ学習としてやりやすい。そういう意味からいって、総体的には帝国書院を推すのかなと、そう思います。

○委員長 はい、ありがとうございます。帝国書院がよろしいということですね。高野委員。

○高野委員 私は、やはり中学というのは、一番教育で重要な時期だと思うのですね。自分を考え、見つめ直し、将来をどういうふうに立て直すか。その観点に立つと、やはり一番重要なのは、資料を見てどういうふうになっているか、調べて考える能力、これを養うことを重点として考えました。

そうしますと、この東京書籍でございますけれども、これに関しては、日本から世界へという展開が書かれているように感じました。さらに、今述べましたように調べて考える能力を養うというような、つまり先ほど指導室長の御説明がありましたように、情報を集めて、テーマを決めて、仮説を立てて、そして調査計画を立て、調査して、考察すること、これを若いときから、将来どういうふうに関与、成長するかわからない子供の段階ですけれども、きちっと、そういう物の考え方をつくるという能力が要求されています。そういう点から、この東京書籍を推薦したいと思っております。

○委員長 はい。高野委員は、東京書籍ですね。

○高野委員 みずから学んで学習する展開になっているという結論です。

○委員長 はい。教育長。

○教育長 新しい学習指導要領において、広い視野に立って社会に対する関心を深め、資料に基づいて多面的、多角的に考察して、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深めることになっていますが、その中で、今回、東京書籍については、説明する、発表するという項目が77項目。そして、要約、まとめる、整理するを箇条書きにすると、調べ学習についての41項目あります。そして帝国書院については、説明する、発表するということについても、特に日本のさまざまな地域については56項目。そしてその他については、まとめる、整理する、箇条書きにするというのは44項目ということで、両方とも写真がすごくきれいで充実しています。また、やはりこれは自分たちで、その学習のまとめをきちんとやっていかないと、なかなか定着していかない。特に、いろんな中での地図と地理が一致してきております。大判で見やすいということと、丈夫に地図と地理がタイアップしているのではないかと考え、帝国書院がいいのではないかと思います。東京書籍もグラフの活用の技術とか、東北の伝統文化をしっかりと扱っているなど、今回の震災を含めて、編集上の工夫がしっかりしてあるので、いいのではないかなという感じです。

○委員長 帝国書院と東京書籍がいいということですが、最終的にはどちらがいいという結論ですか。

○教育長 私は帝国書院です。

○委員長 帝国書院ですか。

○教育長 はい。

○委員長 帝国書院が3人、東京書籍が1人ということでございます。2人对2人だったら、委員長としてとても責任があるところだったのですが……。

私、今から何十年か前に、「宇宙からの帰還」という本を読みました。立花隆の著作で宇宙飛行士が帰ってきて、どういう考えになったか。宇宙から地球を見ると、もう実にちっぽけで、その中で争いごととか、いろんなことをしているのがばかばかしくなると、すごく超越した気持ちで、地球に帰ってきたという本を読んで感動をしたのですけれども、この東京書籍の地理は、写真は先ほどから皆さんいいと言っていますけれども、最初の5ページに見事な宇宙から見た地球の写真がありました。陸地から陸地の写真、あるいは海ばかりの地球の写真とか、いろんな写真を通して、箇所箇所に宇宙から見た地球の今ここの説明をしている。いろいろなところに地球の写真が出てくるのが大変印象的で、私は東京書籍がいいかなと思いましたがけれども少数意見でございました。

私も含めて、すべての委員の御発言がありましたので、他に御発言がないようであれば採決に移ります。よろしいですか。地理的分野の審議を伺っていて、最終的には3票、帝国書院がよいとの意見かと思いましたが。そのため、改めて帝国書院を採択することについてお諮りをいたします。種目「地理的分野」については、帝国書院を採択することについて御異議はありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 異議なしとのことですので、教科「社会」、種目「地理的分野」については、帝国書院を採択することと決定いたしました。

それでは、続いて、教科「社会」、種目「歴史的分野」を審議、採決をいたします。

指導室長より、歴史的分野について説明をお願いします。

○指導室長 教科「社会」、種目「歴史的分野」について御説明申し上げます。

「東京書籍」、＜内容＞パレスチナ問題やバブル経済の崩壊等、現代史が詳しく書いてある。地域の歴史についての調べ学習の仕方が載っている。＜表現＞巻頭の「歴史の流れ」のイラストは、子どもにとって興味を引くものである。＜構成＞初めに歴史の調べ学習の仕方が載っている。「スキルアップ」があり、歴史の調べ方、まとめ方が身につく。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞振り返りで確認ができてよい。大判で内容が豊富であり、歴史に興味を持つきっかけになる。

「教育出版」、＜内容＞日韓併合などについての様子が詳しく書いてある。竹島、尖閣諸島や中東紛争等、現代史が詳しく書かれている。＜表現＞年表があり、何世紀かが分かる。中学生がイラストで登場し、一緒に勉強していくという構成になっており興味がわく。＜構成＞各章の始めにこれから学習する内容がイメージできる説明がある。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞地球の歴史と人類の歴史を比べて長さをイメージできる地球カレンダーは興味を引く。

「清水書院」、＜内容＞単元「日中戦争と戦時体制」では、本書で概要を学習し、詳細は資料集を使って調べる内容になっている。＜表現＞文字のポイントが大きい。古代や中世は、文化財の写真が充実している。＜構成＞歴史の流れを知るために歴史年表を作る活動が紹介されており、歴史学習に関心の高い子供の興味を引く。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞「深める歴史」は発展的な内容の知識の習得に役立つ。

「帝国書院」、＜内容＞東アジアでの支配や敗戦について、立場の異なる人達の思いを資料で提示し、意味を考えさせる内容になっている。＜表現＞イラストや地図が見やすい。＜構成＞各章の始めが「タイムトラベル」になっており、今から過去にさかのぼって行ってみるという視点よい。＜地域性＞官営工場で千住製絨所が記載されている。＜使用上の便宜＞「チェック&トライ」で何を学ぶかというポイントが明確になっている。

「日本文教出版」、＜内容＞韓国併合や日中戦争等、詳しく書いてある。＜表現＞写真多く、きれいにまとまっている。＜構成＞左端が年表になっており、時代の物差しとして現代との距離感がわかってよい。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞今後の日本の役割について、引き続き大きくなっていると書いてあり、子どもに考えさせる内容である。

「自由社」、＜内容＞終戦について、天皇の臨席のもと御前会議で聖断下ると書いてある。原

子爆弾の被害は注釈で触れている。＜表現＞大東亜戦争、聖断など、近代史の表記に特徴がある。＜構成＞本文を説明するための読み物的な構成となっている。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞古代の文化の特徴となる浄土信仰の理解を深めるために、仏像の見方を掲載している。

「育鵬社」、＜内容＞戦中の文化について、戦争文学が盛んになったと紹介している。＜表現＞日本の文化として仏像を数多く扱っている。大東亜戦争、天皇の判断（聖断）など、近代史の表記に特徴がある。＜構成＞本文を説明するための読み物的な構成となっている。日本国憲法の制定では、GHQのかかわりを詳しく説明している。＜地域性＞浅草三社祭を扱っている。＜使用上の便宜＞歴史を実感する手段としてロールプレイが紹介されている。

2枚目に参りまして、全体に関する意見。未来につなげるという観点から、近代史や現代史が分かりやすいものが好ましい。今からどのくらい離れた時代なのかということが分かりやすいものが好ましい。歴史への興味・関心を高めるものが好ましい。歴史を調べたりまとめたりする力を育成できるものが好ましい。

以上でございます。

○委員長 はい。

○指導室長 済みません。教育出版の内容のところで、韓国併合を日韓併合と読み間違えてしまいました。韓国併合などについての様子が詳しく書いてあるということでございます。

○委員長 はい。教科「社会」、種目「歴史的分野」について説明がありました。

御審議をお願いいたします。青山委員からお願いします。

○青山委員 最初に指導室長にちょっと質問したいのですけれども、選定調査会の報告、全体に関する意見で、近現代史についてわかりやすいものが好ましいと、あえて意見が出ています。これは未来につなげるという観点からというふうに表現していて、これは当然だとは思いますが、あえて近現代史を全体に対する意見で選定調査会が強調した理由を教えてください。

本来、歴史というのは、全体の通史を骨子として基本的な流れをとらえるということで正しい歴史観が形成されるのだと思います。ある一点だけ取り出すと、問題があるような行動が、国家とか、社会とか、民族で見られる場合もあるわけです。場合によって、そこに追い込んでいくという国際社会にも、必ずしも国際社会の全体が正しいとは限らないわけですし、そういう場合もあり、往々にしてそれらが論争を生じさせるわけですが、そういう意味では、近現代史のわかりやすいというのは非常に大切なことだと思います。

問題は、よく報道されるように、歴史でなかなか中学校の歴史でも近現代史まで行かないで終わってしまうというような批判が往々にして見られるのですが、荒川はきちっと近現代史まで行っていると、したがって選定調査会は近現代史に注目したと、そういうふうに私は理解した

いのですけども、それはやや、それを押しつけるわけではなくて、選定調査会としてどうだったのか。あえて全体に対する意見で近現代史を取り上げたというその評価の視点について説明、あるいは背景とか、あるいはどういう議論がなされたということについて説明してもらいたいと思います。

○委員長 指導室長。

○指導室長 今、お話がございましたように、荒川区の学校で近現代史まではしっかりと指導をしているところでございます。その中で近現代史につきましては、やはりさまざまな見方があり、評価が定まっていないというようなものも場合によってはございます。子供たちにとっては、場合によってはわかりづらい内容になってしまうケースがございますので、そういったところから、そういう近現代史の内容につきましても子供たちがわかりやすい、理解しやすい、そういった授業が成り立つような教科書が望ましいという意見が出ております。

○委員長 はい。

○青山委員 近現代史まで行っているということで、前にも聞いたことがありますけれど、改めて安心をしました。

そこで近現代史の内容についてなんですけども、私は、やはり今のその近現代史についていうと、もちろん未来につなげるという観点からなのだと思いますけども、同時に改正教育基本法は、我が国の未来を切り開く教育の基本を確立している。その前文を今回改正したわけでございます。ということは、やはり教育の基本として我が国の未来を切り開くということは、結局、政治とか、外交だとか、国際関係ももちろんなんですけども、やはり明治以来、日本が殖産興業を進めて、アジアの代表選手として近代工業国家として発展したというのが、やはり未来を切り開いてきた。それだけはないのですけども、それが1つの重要なファクターではないかと、そう思います。

そういった意味で、近現代史をこの各社の教科書を読み比べてみますと、まず、明治維新以降、特に最初の10年間、殖産興業路線で、相当外交関係との論争、特にアジアの近隣諸国との関係などの論争とか政争を繰り返す中で、内政を重視して殖産興業に最初の10年に非常に力を入れたと、明治政府が。これは非常に大きい要素だと思って、そこら辺を各社がどう書いているかということを読み比べてみました。

まず、ちょっとこれは除外したほうがいんじゃないかなと思う教科書は、殖産興業の10年間、特に後半、暗殺されるまでの5年間、殖産興業の中心人物であった大久保利通について、単なる明治4年の遣欧使節団の一員としてしか取り扱ってないという形で殖産興業のイメージが非常に薄いという教科書は、やっぱり相対的にはちょっと違うのではないかなと、そういうふうに思います。

特に、大久保利通の写真が何回も出てくるのですが使節団の一員としてしか説明されていないというのは、何で写真が何回も出てくるのかなと、それならと、そういうふうに思います。それに対して、大久保利通が、特に明治10年間の後半、殖産興業を中心になって進めたという明快な姿勢がある教科書もあります。

結論を言うと、東京書籍と自由社と育鵬社と、この3社は殖産興業についてのきちんとした記載があると。それに対して、ほかは大体使節団の一員としての大久保利通がいたってということと、殖産興業、単に殖産興業を推し進めたということと、やはり軍事力の強化にいそしんだという評価しかないのかなと、そう思います。ただ清水書院が、立憲政治についてきちんと関連して記載しているという点はあるかと思えます。私は、これが1つの評価のポイントだと思います。

次に、やはり近現代史では、第2次大戦の発端開始と、それから戦後の日本が不死鳥のようによみがえっていった過程、それがどう表現されているかということが重要だと思います。これについては、改正教育基本法は、教育の目標のところ、あえて国際平和ということ強調しているわけですね。

ですから、前文で教育基本法の改正が未来を切り開く教育の基本という表現を新たに入れたということと、それから教育の目標で国際平和というのを、もともと前文にはあるのですが、それを教育の目標にもう一回入れたと。この2点から第2次大戦という、近現代史では最も大きな出来事をとらえています。その場合、やはりどうして第2次大戦が勃発したのかということが一点、それから戦中戦後の市民の生活がどうだったかと、国際融和という観点からいうと、やはり市民生活が非常に悲惨であったと、戦中戦後にも、いろいろ問題もあったし、民主主義的でもなかったし、戦時中は。それから、戦中戦後を通じて国民生活が非常に悲惨であったということがどう表現されているかという点が大切だと思うのです。

まず、第2次大戦がなぜ発生したのかというのは、基本的には、やはり日本が、主としてアメリカですけれども、どうやって戦争にある意味追い込まれていったのかと。もちろん国内には進んで交戦的な勢力というのはあったかもしれませんが。しかし基本的には、やはり、アメリカのフランクリン・ルーズベルト大統領以下の政策で、非常に厳しい姿勢を日本に対してとったと。特に資源関係で、今日、近隣のある国に対して日本がとっているような政策を日本に対してとったということで、非常に日本の政治経済、軍部が焦ったという事実は、大方が認めるところだと思います。あと、外交関係でも相当に日本を追い込んでいったということがあると思います。

そういう意味でいうと、東京書籍、自由社、育鵬社の3社は、日本が特に資源関係とか外交関係で大戦に追い込まれていったという経過がわかりやすく記述されているのではないかと、そう思います。具体的な区別を言うと、自由社と育鵬社はハルノートについてきちんと書いている。それから、東京書籍はA B C D包囲網についてきちんと書いてあるということだと思います。も

もちろん、そのほかの帝国出版、清水書院、教育出版、日本文教出版も、これらについて関連した記述はあるけれども、総体的にいうと、東京書籍のA B C D包囲網とか、自由社、育鵬社のハルノートという具体的な記述があると、アメリカがそういった形で国策として日本を追い込んだという部分についての子供たちの理解というのはしやすいのではないかと、そう思います。

それから次に、第2次大戦関係の戦時下、あるいは戦後に、日本の国民の生活がいかに悲惨であったかという点についても、これもやはり私は非常に重要な要素だろうと思います。これは改正教育基本法の国際平和をさらに、従来よりもさらに強調したかった。そういう点からいうと、やはり重要な評価要素だろうと思います。

こういった点について見ると、これはやはり、例えば広島・長崎の原爆投下の問題とか、あるいは東京大空襲の問題とか、それから戦時下には、余り民主的な国政運営ではなかった点だとか、それから戦後の、かなり窮困した国民生活ですとか、それに対していろいろな国際援助でしのぐ中で、日本人の非常に勤勉な国民性によって10年か20年の間にアジアの代表選手ということで、アジア各国から日本が1つの、もちろんそれぞれの国の一部の人たちであって全体ではないのですけれども、日本モデルが目標とされるというところまで日本はかなり早い時期に回復していった、そういった過程。今の子供たちは、現在のこの物質的には一見豊かな、豊かでない貧困も非常に問題なのですが、でも一見豊かな状況しか知らないもので、そういう中で、やはり戦時下、戦後の悲惨な生活というのを知ってもらおうと。あるいは、広島、長崎や、あるいは東京大空襲のような、いわゆる無差別爆撃によって多くの人々が犠牲になるのが戦争だと、そういったところから国際平和を切実に、実感してもらおうということで、これらの状況を伝えていくということが必要かなと思います。

そういった点でいうと、自由社、育鵬社よりも、そのほかの会社のほうが総体的に伝えられる内容が書いてあるかなと思います。

以上でございます。

○委員長 全体的には東京書籍ということですね。

○青山委員 はい。

○委員長 小林委員、お願いします。

○小林委員 歴史教科書ですが、選定するポイントとして考えたことですが、まず1点目として、生徒の興味を引くということが重要です。

2点目ですが、資料に基づきながら考えることを促すのが必要と思っております。歴史というのは暗記科目と考えられることが多いのですが、暗記科目ではないと私自身は考えております。

荒川区の選定調査会の調査研究報告におきましても、全体に関する意見の中で、歴史への興味・関心を高めるものが好ましいとあります。さらに歴史を調べたりまとめたりする力を育成で

きるものが好ましいという全体としての意見がございます。その上で7社を詳細に検討させていただいたのですが、東京書籍、帝国書院、教育出版が荒川区には適していると思っています。

まず、東京書籍について述べさせていただきたいのですが、1点目として、子供の興味を引く内容となっているということでございます。東京書籍を見ますと、各章、冒頭部分ですが、その時代に活躍した人物の絵などがございまして、これは子供たちの興味・関心を引くのではないかなと思います。

2点目ですが、資料、これは写真であるとか、陶芸であるとか、絵であるとか、そういった資料が豊富ということが指摘できます。歴史は、資料に基づきながら丁寧に読み解き考えるということが非常に重要ですので、その点がすぐれています。

3点目ですが、歴史スキルアップというものがございまして、歴史資料活用のスキルを学べるように工夫されているということが指摘できます。

4点目ですが、東京書籍の場合、多くの問いを生徒に投げかけて、考えさせる内容になっています。その問いの出し方も具体的な資料を最初に提示しながら、だんだんと問いを深めていくという工夫がされています。

次ですが、帝国書院を見せていただきますと、帝国書院も非常に工夫がされておりまして、とても興味深い教科書です。各章の初めに「タイムトラベル」がありまして、例えば18世紀であれば18世紀の人々の様子というのが描かれていて、当時の人々がどのように暮らしていたのか、生活していたのかを紹介するページがあり、現在から過去にさかのぼるという視点が非常によいと思います。過去の事象を自分自身に引きつけて考えることができ、生徒の興味を引く内容です。

それと、帝国書院の場合ですが、各ページに「チェック&トライ」がありまして、ページごとに学習ポイントが非常に明確であり、また生徒に考えさせる内容となっています。

3点目、帝国書院ですが、官営工場で、荒川区にあります千住製絨所が記載されておりまして、地域学習との関連でも非常によいかなと思います。

最後、教育出版ですが、この教育出版も、非常に生徒に興味・関心を引く内容、また考えさせる内容上の工夫がされています。教育出版に関しましてもページごとにトライというのがございまして、生徒に考えさせる内容となっております。

教育出版の場合、ページに年表がございまして、これから学習する時代がどこに位置づいていくのかという年表で、これは歴史学習の上では非常にいいのではないかなと思います。

総合的に判断しますと、新しい学習指導要領の中に基礎的な知識技能を習得して、みずから判断し、表現するということが述べられている点、また荒川区の場合に、平成22年度、その学力調査の結果から、やや社会に課題があるということから、基礎をきちんと学んだ上で活用していくということが重要と考えることができます。

以上から、東京書籍がよいと思っております。

○委員長 いろいろ判断した結果、東京書籍がよいということでございます。はい、高野委員お願いいたします。

○高野委員 先生方のお話、よく聞きましたので、それに関して違う、別なことを言いたいと思います。清水書院、生物の起源から人の歴史の初期ですね、特に縄文式、弥生式と、この辺のところ非常によく書かれていて、とてもおもしろいなと思います。しかし、これを読むにはかなり知識があって読みこなさなきゃいけない、非常に時間がかかるなと思いました。だから優秀な子にはなじみがあるだろう、どんどん進めるだろうと、しかし、いろいろな子供たちがいますので、これはちょっと難しいから残念だと思っているのが本当の気持ちです。

そして未来へつなげる観点から、近代史や現代史について詳しく書かれているほうがいいのではないか。これは、先ほど青山委員がおっしゃったことと同感であります。そして今、現在からどのくらい離れているか。常に歴史というのはWhere we areというのですか、僕たちは、今どこにいるのだという起点を設けることが大切だと思うのです。そういう視点から見ますと東京書籍ですね。私は、日本の高度成長、経済成長、それによって日本の国ががらっと変わってきたということが非常に重要だと思うのです。この点について非常によく書かれたものが東京書籍でありました。

そして、そこからもう一つ、年表がそれぞれついているのですが、その中をみえますと、この時代の学習を振り返ってみんなで考えてみようというセクションがありました。やはり常に私たちはどこにいるのだろう、そしてこれからどういうふうになるのだろう、将来に対する展開も考えられる、そういう観点から評価して、私は東京書籍を推奨いたします。

○委員長 教育長。

○教育長 歴史についてですけど、真実を明かしていくということが一番大切でして、例を挙げますと、長篠の合戦でなぜ信長が勝ったのか。先生方自身が、本当に教え方がうまくなければいけないのです。小学校の6年生のとき、社会が好きかということですね。学力向上調査結果によると社会は79.9%の6年生が理解している。そして、中3になると68.0%、マイナス11.9%、そして好きかどうかに対して、6年のときは67.4%、それが中学3年になると63.2%と、マイナス4.1%も落ちている、歴史に関する教え方について、本当に先生方がちゃんとできているのかと疑問をもってしまう。だから、私は長篠の合戦を1つ取り上げても、その当時の長篠は、もちろん火縄銃を使ったのだけれども、火縄銃の射程距離がどのくらいだったのかな、その当時、日本には硝石がありませんでしたが硝石は、どこから取り寄せたのだろう。鉛はほとんどなかったですが、鉛はどこから取り寄せたのだろう。そういう形で子供たちに興味、関心を覚えさせて、信長がどうして勝ったのだろう、多分射程距離が悪いところで、田んぼの中

にさくをつくって、当時最強であった武田の騎馬軍団が動けなくなったところを撃ったから勝ったのではないとか、当時の、その前の日に雨が降ったか、降っていなかったかということでもえらい違うと思うのです。そういうことも含めて、歴史の教え方に関してきちんとした教え方をしていくということが大切だなという感じがしています。それで、私も社会が好きになり、社会の免許をとったということが1つの理由です。だから、先生の教え方によって真実を知り、その歴史から何を学んでいくかっていうことが、今からの日本の行き方とか日本の国際社会でのあり方とか、さまざまな観点より考察することが一番大事だと思っています。

その中で、育鵬社は、688人の登場人物を取り上げています。平均は471人ですので、117人もたくさんの日本のいろんな人物を取り上げています。そういう意味では本当に人を尊敬し、また一番いいところは、外国人から見た日本とか、当時の西郷と大久保が目指したものとか、当時の人たちが目指したことを真剣に述べているということに関してはすごくいいなという感じがします。また262ページのインターネットで調べてみようというふうに、インターネットの乱用についてきちんと掲載されているのもいいなと思います。

興味を持ったことに自分から進んで学習する中学生は、学力向上調査結果では56.3%です。小学校低学年の82.9%がだんだん下がって、自分で学習するということがすごく減っている中で、やはり歴史の調査研究の方法の中でやはり言語活動をきちんと取り上げていくということが大事だと思います。東京書籍は95カ所の、先ほど挙げたようないろいろと調べる学習を取り上げています。そういう意味では、本区の生徒にとっては、主体的な学習、興味、関心を持って学習に取り組める内容になっているので、生徒が歴史的な事実、事象をさまざまな角度から、天候とか資源とか、そのときの状況とか、本人の生育歴とか、いろんなものを総合的に判断して歴史を学んでいく。予測する楽しさ、そういうものを学ばせるために、どうすればうまく調べられるかということが具体的に「スキルアップ」の中に入っています。

歴史の調べ方、まとめ方が、身につくような設問とか発問がいろいろ他の教科書にもあります。帝国書院の「チェック&トライ」とか、何を学ぶかというような、一番子供たちに大切なことはわからないことがわかるということなのです。今の子供たちは自分がわかっていないことをどうしようか、解決しようかという気持ちがないのですよね。わからないこともわからない子供がたくさんいますので、やはり一番大事なことは、今、自分は何がわかってないか。それに対して何を追及するかということを中心にきちんと教えていかないと学習意欲が低下し、家庭に帰って自分から進んで学習習慣が身についてこないという状況がありますので、そういう面では東京書籍の歴史の調べ方が載っている「スキルアップ」のあたりが大変いいなと感じ、最終的には東京書籍がよいのかなと考えました。

○委員長 4人とも東京書籍でございました。中学生の歴史の授業で地域を調べようという授業が

あって、各学校、中学生4人1組になって区内を歩いて自分たちの住んでいる地域の勉強をしようということで区内の勉強をしています。その勉強の仕方、地域の歴史について調べ学習というようなことを東京書籍に載っているということで、また東京書籍の教科書の中で各ページに確認マークというのがあって、それぞれきょう、今回学んできたことについて確認して、復習して、学習した内容をさらに深めていこうということが教科書に出ていました。私も東京書籍がよろしいかと思います。

ほかに御発言はございませんか。——ないですね。

それでは、全員の御発言がありましたので、ほかに発言がないようであれば採決に移ります。

御審議を伺っていて、最終的には大方の委員が東京書籍がよいということになりました。

改めて東京書籍を採択することについてお諮りいたします。種目「歴史的分野」について東京書籍を採択することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 異議なしとのことですので、教科「社会」、種目「歴史的分野」は、東京書籍を採択することと決定いたしました。

続いて、教科「社会」、種目「公民的分野」を審議・採決をいたします。

指導室長より公民的分野について説明をお願いします。

○指導室長 教科「社会」、種目「公民的分野」について御説明申し上げます。

「東京書籍」、＜内容＞「人権ディベート」や「市長になって考える」等、考えさせる手段がたくさんある。模擬裁判、消費者問題にも詳しい。＜表現＞写真、イラストが豊富である。＜構成＞考える内容の「公民にチャレンジ」や、知識を与える「公民にアクセス」のコーナーがあり、学習しやすい構成である。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞「学習を振り返ってみんなで考えてみよう」があり、学習が定着しやすい。本のサイズが違う。

「教育出版」、＜内容＞「ディスカッション」「ディベート」「模擬裁判」「プレゼンテーション」等、考えさせる手段が多様である。＜表現＞子供たちが生まれた後のワールドトレードセンターテロ事件を扱っており、現代社会を考える導入に適している。＜構成＞事実関係や情報を伝え、それをもとに考えさせる構成になっている。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞各章に著名人の言葉があり、導入で使いやすい。

「清水書院」、＜内容＞見開きごとに問いかけがあり、考えさせる内容になっている。＜表現＞菅総理大臣とオバマ大統領の写真を載せるなど、資料が新しい。＜構成＞節の後に「公民ファイル」を配置し、節の内容を補充する構成になっている。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞資料や写真が本文の内容を考えさせるのに適切である。

「帝国書院」、＜内容＞国民として、消費者として、経営者として、納税者として等、考える

視点が明確に示されている。＜表現＞政治単位では各政党の最新のマニフェストや国会の空席の写真を扱い、子供の関心を引く内容になっている。＜構成＞公民とはどのようなものかということが丁寧に説明されており、公民の学習をスタートしやすい。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞「チェック&トライ」は考えさせることに役立つ。「ステップアップ」は知識の定着に役立つ。

「日本文教出版」、＜内容＞ネット社会とのつき合い方、レポートを作ろうなど、自分の課題として学習する内容になっている。＜表現＞日本の現代史年表があり、世の中の動きを捉えやすい。＜構成＞ワークシート形式を取り入れ、協議しやすい構成になっている。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞「情報スキルアップ」で情報の読み方や考え方について学ぶことができる。

「自由社」、＜内容＞単元「日本国憲法と立憲的民主政治」では、天皇の役割や仕事が詳しく書かれている。＜表現＞資料は見開きページに3～4個と少なめで、本文の部分が多い。＜構成＞「もっと知りたい」を設置し、内容を理解できるようにしてある。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞章ごとに「学習のまとめと発展」を設置し、最重要語句が示してある。

「育鵬社」、＜内容＞「やってみよう」は企業訪問の申込の書き方指導となっている。＜表現＞戦後日本の歩みが年表になっている。＜構成＞「理解を深めよう」では、日本の伝統文化について写真を使いまとめている。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞章ごとに「学習のまとめ」があり、学習内容や重要語句の確認ができるようになっている。

全体に関する意見。社会の仕組みを分かりやすく記述しているものが好ましい。社会で生きていく力を身につけるために、1つの側面からだけではなく多面的に事実をとらえて考えられる内容になっているものが好ましい。ディベートやプレゼンテーションなど、多様な考えさせる方法が提示されているものが好ましい。

以上でございます。

○委員長 教科「社会」、種目「公民的分野」について説明がありました。御審議をお願いいたします。小林委員から。

○小林委員 7社について詳細に検討させていただきました。

選定のポイントですが、まず1点目として、社会全体の動きを多角的に考えることができる内容というのがございます。2点目として、生徒の興味を引く内容であるということ。さらに、3点目として、考えさせる手段が多い教科書がいいのではないかとことから考えさせていただきました。

また、教科書選定調査会の調査研究報告を見せていただきますと、「全体に関する意見のところで、社会の仕組みをわかりやすく記述しているものが好ましい」とございます。また、「多面的に事実をとらえて考えられる内容になっているものが好ましい」とあり、「ディベート、プレ

ゼンテーションなど、多様な考えさせる方法が提示されているものが好ましい」というふうにございます。

以上のポイントから考えさせていただきまして、東京書籍と教育出版が荒川区では適しているのではないかと思います。

まず、東京書籍ですが、1点目として、考えさせる内容が充実しているということを特色として挙げるができます。例えば、ここにも指摘されているのですが、「市長になってみよう」と。実際に市長になったらという想定で考えさせ、これは思考力を養うものです。

そして、2点目、経済教育に関して述べさせていただくと、こういったグローバル化が進みました現代社会に生きて生活していく上で経済教育は非常に重要と考えるわけです。それで見させていただきますと、東京書籍の教科書ですが、「私たちの暮らしと経済」というところで見ますと経済についてわかりやすく理解できるようになっています。

例えば最初の章、最初のページのところでコンビニエンスストアの写真がございまして、コンビニは生徒の生活に非常に密接にかかわるものですので興味をまずここで引くことができるかなと思ったのです。問いとして、コンビニエンスストアは売り上げを伸ばすためにどのような工夫をしているのだろうという導入の問いがされています。その上で、次の段階としてコンビニエンスストアの経営者になってみようという発問もされておりまして、生徒の関心を引く内容です。

それと次、教育出版ですが、ディベート、ディスカッション、模擬裁判など考えさせる手段が非常に多様で、例えばディスカッションの中で、仕事につくということは一体どういうことだろうと、あるいは大人とは何だろうといった、そういったことがディスカッションで議論ができるようにされております。また、ディベートのところを見ますと、監視カメラを設置すべきかどうかというディベートが設定されておりまして、ディベートの流れ、ルールも含めて詳細に紹介されているわけです。

以上、2社についてコメントを述べさせていただきました。

総合的に判断いたしますと、まず生徒の興味、関心を引きつけるということが重要であるということ、また、荒川の場合に基礎力を重視しながら考え方を深め、さらに活用へとつなげることができるということが大切ですので、公民の教科書としては東京書籍がよいと思います。

○委員長 それでは、高野委員、お願いします。

○高野委員 社会の仕組みをわかりやすく、そして、いかに常識人として高校生活あるいは社会人として成長するかということに大変基礎的な、人間としての社会に暮らす意味から極めて重要な教科書だと思います。そういう点から見ますと僕は、東京書籍を推薦します。といたしますのは、東京書籍なのですが、目次を見たことによって、世の中ってこういうことでできているのだなということが、第5章まできちっとわかるようになっていきます。写真もきれいですし、わかりにく

いところを非常に丁寧に説明されているように思います。そういう点を比較しますと、レイアウトも上手なのですが、絵もきれいですし、本当に理解しやすい、また、わかりにくいところを簡単に、明瞭に、的確に、提示している教科書だと思いますので東京書籍を推薦したいと思います。

○委員長 では、青山委員。

○青山委員 公民については、まず学習指導要領の中では公民としての基礎的教養を培い、国際社会における平和で民主的な国家社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うということが目標として求められています。現代において公民という種目で扱うべき現代の国際平和ということであると、我が国の特徴というのは、油断してはいけませんが、相対的にテロが少ないということが言えます。アメリカもイギリスも同時多発テロに襲われた。それから、スペインやイタリアやフランスもテロに悩んでいる。本来なら観光立国だったはずなのですが、スペインでさえ昨年のテロの認知件数は100件を超えている。いわゆる国際的にアメリカやイギリスが襲われているのと同じような形でのテロ。フランスも今、例えば最大の観光地であるサクレ・クール寺院なんか自動小銃むき出しの兵士で守られていて、テロ情報があったという説明があるわけです。イタリアもやはりテロに悩まされている。そういう状況に比べると日本の国民は、意識はしていないのですが、もちろん油断してはならないし、近隣に非常に警戒しなければならぬ国も多いわけです。しかし、現時点で実際に、現代の戦争というのは、いわゆるお互いに戦車や飛行機を繰り出す戦争をやっていますけども、でもテロというのは非常に一般市民の生活を脅かすものということがあって、それに対して、我が国の公民として意識しておくということが必要だと思います。

そういった観点から教科書を読み比べると、ある会社はイスラムと名指しで言っていて、ちょっとこれは違うのではないかと。もちろん検定を通過しているのですから、それで違うというのは言い過ぎかもしれないが、それだけを言うと、それでテロの原因のすべてを語ったことにならないのではないかと印象を持つような本があります。それから、ナイン・イレブンに傾斜し過ぎると、やはりテロの本質を見誤るのではないかと思います。もちろん、ではテロの原因は何なのだということ、宗教的な原因とか、いろいろ領土紛争だとか国際的な民族間の憎悪ですとか歴史的な経緯があつて一言では説明できないのですが、でも基本的には東京書籍は、「これに対して貧富の格差の改善などにより根本的な対策も求められています」という言い方でこのページを結んでいて、もちろん貧困の問題だけが原因ではないのですが、テロの原因をなくそうという方向に行っているから、もうこれ以上は多分中学校の教科書では書けないだろうと思いますけど、相対的にはテロの問題に対して真正面から取り組んでいるという印象を持ちました。

次に、男女平等。これはやはり改正された教育基本法で、教育の目標として新たに男女平等と

いう項目が明定をされました。これについてどうなっているかといいますと、問題は女性差別が法律上、制度上はなくなっているはずなのですが、実際には、特に日本の代表的な企業において、例えば役員会だとか管理職だとか専門職だとかの中でいうと、圧倒的に男性ばかりだという現状があって、かつてのアファーマティブ・アクションという20年前の考え方、今はダイバーシティとかインクルージョンという考え方で、ビジネスの世界では掛け声だけはしているのだけれども、主としてビジネスの世界で変わってないという、掛け声だけしか変わってないという問題があるわけです。この辺について真正面から記述されているのは東京書籍と日本文教出版だと思います。ほかの会社は扱ってはいるのだけれど抽象的だと思います。それから、自由社と育鵬社は男女平等について多くのページ数を割いています。これらの会社の中では、最も多く、男女平等についてページ数を割いているのは自由社と育鵬社です。ただ、残念ながら中身が、男女平等を履き違えて行き過ぎたというか、おかしいことをしていると。確かにおかしいと言えばおかしいものもあるわけですね。この中にはあって、それなりにパーツとしては非常に説得力のあるものの中にはあるのですけれども、やはり基本的な、特に日本の場合、あとはビジネスの世界で男女平等が課題だと、もちろん政治の世界でも、あるいは人々の意識もそうなのですから、そういったことについて改正教育基本法で、あえて男女平等を明定したということに対して正面からこたえているのは、この点では東京書籍と日本文教出版が相対的に近づいていると思います。

次に、消費者問題について読み比べをしてみました。なぜかという、また改正教育基本法の前文に戻るのですが、我が国の未来を切り開く、これが前文につけ加えられたわけですが、これはやはり20世紀に比べた21世紀の世界の社会というのは経済、社会がグローバル化してきている。好むと好まざるとにかかわらずグローバル化して、その結果、各国とも理論的には軍事力の強化と、それから投資家の保護と自国内の消費者の保護を強化しているというのが21世紀の特徴でして、ただ日本は軍事力を強化するのですが、投資家の保護と消費者の保護については相当法改正を示して、あえてここで消費者問題だけについて言うと、まず消費者基本法で、学校教育の場で消費者教育をするようにいうことを明定しているわけですが、その消費者問題については、やはり小泉構造改革以降、2000年以降、日本では毎年のようにたくさんの法改正がなされた。新たな法律も幾つもできました。消費者契約法だとか消費者庁設置法だとか、それからそのほかの法律もかなり抜本的に改正をされてきました。自主的に進んでいるかという、これはまだまだなのですから、法律制度からいうと相当、もう先進国水準並みとしてはハイレベルなところまで法制度は改正されてきた。その理由は、要するに国際資本が自由に出入りするから自国民の消費者としての利益を守るという考え方であるわけですが、これについて読み比べると、基本的な点について言うと、一番自主的に、新しいのは消費者契約法で、その消費者契約法で読み比べとしてわかりやすいのは、消費者契約法という法律は単にいろいろ問

題があった場合に取消することができるか、申し込みをキャンセルできるか、そういう問題についてはどこも書いている。それが1つの柱で、確かにそれは正しいのですけれども、もう1つの柱は、私たちは大学の法学部で民法を習うと契約自由の原則というものを習います。民法で一般規定がいろいろ、賃貸借だとかそのほかについて定められているけれども、それと違う契約を当事者間と結べばその当事者間の契約が優先するというのをたたき込まれます。私もそういう民法を習ってきました。ところが、消費者契約法は根本的にその常識をひっくり返して、事業者と消費者の契約については、民法の一般規定と比べて消費者にとって不利な契約を結んだ場合は、それは無効であるとしている。つまり契約自由の原則と全く違う、消費者と事業者の契約については、民法の一般原則より消費者にとって不利な契約を結ぼうとしたら、それは無効である。少なくとも民法の一般原則までは消費者の優位性を引き上げるという規定が消費者契約にあるわけです。やはりこの2つの柱のうち1つはあらゆる全部の教科書には取り上げていますが、もう1つの柱まできちんと取り上げているのは東京書籍の111ページ、これが取り上げているということで、そういう意味ではグローバル化の中で自国民の消費者の利益をどう守っていくかということについてはきちんと触れられている、そう思います。

したがって、これらの点を総合し、東京書籍を推したいと思います。

○委員長 いろいろ多方面から御意見をいただいて東京書籍ということで、お3人が東京書籍になりました。

では教育長、よろしくお願いします。

○教育長 公民的分野ですけど、私は東京書籍がいいなと感じました。特に今、現代社会の中で大きく問題になっている消費者問題に関して、いわゆる金融教育ですね。今いろんな問題で、子供たちがニート、フリーターになっているケースもありますけど、その中で特に自分で収支のバランスがとれないまま、ものを買って自己破産してしまう、そういう子どもがいます。正しい経済感覚、金銭感覚、そういうものを身につけられるようしっかり教育していくことが大切です。また、法律によって払い過ぎたものは返ってくるということをですね。個人を守るのだから、自分が法律をきちんと知っていくっていうこと、また、今、有害サイトがありまして、サイトをもし見たら大変な状況になってしまうという、そういういろいろな危険と隣り合わせで生きているという状況をきちんと中学校の段階で教えていくということが本当に今、必要だなと感じています。この問題については東京書籍が本当にわかりやすく書いているので、そういう面ではすごくいいなという感じがします。他の教科書も本当に一生懸命書いているものもたくさんあります。

「チェック&トライ」とか「ステップアップ」という工夫をしながら帝国書院でも書いてありますし、やはり私は、一番喫緊の課題として金銭教育で、どうやって生きていくかということですね。やはり学校全体で、金銭出納帳をつけさせたり、金利がこれについたらどうなるかという

ことをきちんと教えたりしていかないと大変な状況になるということを今、本当教えていかないと、自分自身の学歴がいくらついても、借りまくってしまってどうしようもないという状況もたくさん私の周辺でも発生していますので、そういうこと含めて東京書籍の本がいいと思います。

○委員長 東京書籍がいいということですね。

○高野委員 やはり、先ほどのところで、私が推薦したのと同じように、この章の学習を振り返ってみようということを非常にきちっとしている、取り組みやすいところですね。そして、問題点をピックアップして、これについて考えましょうという点を強調されている。そういう点で、もう一度東京書籍がいい、推薦したいと思います。非常によくまとまってわかりやすいです。

○委員長 東京書籍ということでございます。もう4人、東京書籍ということでございます。私もこの帝国書院の「チェック&トライ」「ステップアップ」っていうのは子供にとってわかりやすい教科書、勉強しやすいと思いますけど、東京書籍も各ページに確認ページというのが、確認マークがあって、ここについてどういうふうにとらえるかということがありまして、学習を振り返って考えるときに学習が定着しやすいのではないかということで、私も東京書籍を推薦いたします。

それでは、全員の御意見がありましたので採決に移ります。よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 公民的分野、御審議を伺って最終的には皆さん、東京書籍を採択するという御意見が多かったと思いますが、種目「公民的分野」について東京書籍を採択することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 異議なしとのことですので、教科「社会」、種目「公民的分野」は東京書籍を採択することといたしました。

会議を始めてから2時間が経過いたしましたので、社会科、次の「地図」の採択が終わったら10分ほど休憩したいと思いますのですが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 では、「地図」の採択が終わったら休憩にしたいと思います。

続いて、教科「社会」、種目「地図」を審議・採決をいたします。

指導室長より「地図」について説明をお願いします。

○指導室長 教科「社会」、種目「地図」について御説明申し上げます。

「東京書籍」、＜内容＞京都、奈良の文化財がイラストで見やすく載っている。＜表現＞北海道地方の北方領土など分割されていることがある。＜構成＞各地方の資料が地域の地図の後ろと巻末に分かれて収録されている。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞サイズはA4標準版で

編集されている。

「帝国書院」、＜内容＞南アメリカ州について詳しく載っている。＜表現＞俯瞰図を多く使い、地形が立体的に捉えられるように工夫している。北海道地方の北方領土は分割させずに載っている。＜構成＞前半は地図、後半は資料という構成になっている。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞サイズはA4特別版で大きく編集されている。

全体に関する意見。サイズが大きい地図が見やすく好ましい。各地域や地方の地図は、内容が詳しいほうが好ましい。平面的な地図だけでなく、立体的に捉えられる図もあるほうがイメージしやすく好ましい。

以上でございます。

○委員長 教科「社会」、種目「地図」について説明がありました。御審議をお願いいたします。高野委員から。

○高野委員 私は、帝国書院を推薦いたします。それは社会科、今までありました3教科ですか、それをうまく反映しているような形になっている。それを、こういう知識があつて、こう集約させて、これをきちっと見るとわかるような感じになっている。それから、俯瞰図があるということは、大きな特徴だと思います。そのため帝国書院を推薦したいと思います。

○委員長 それでは、小林委員お願いします。

○小林委員 東京書籍はA4版ということで、帝国書院はA4特別版で大きいサイズになっておりまして、大きいサイズのほうが見やすい、全体を見通すことができるという点で帝国書院が非常にいいと思っています。

また、帝国書院ですが、鳥瞰図が入ってしまつて、アメリカ大陸の、北アメリカ州の資料図など鳥瞰図になってしまつて、非常に空間的に認識ができるという利点があります。また生徒の興味、関心を高める内容になっているかと思つています。

以上から、帝国書院が適していると考えます。

○委員長 青山委員。

○青山委員 肉眼で見える北方領土が分割されているのはまずいのではないかと思いますので、分割されていないほうがいいと思います。帝国書院のほうがいいと思います。

○委員長 教育長。

○教育長 やはり地図に関しては、大きいほうが見やすいと思います。そういう中で、前半は地図、後半は資料という構成になっていて授業が進めやすいということで帝国書院を推薦します。

以上です。

○委員長 4人とも帝国書院がよろしいということでございます。私からも何も申し上げることない。私も帝国書院がいいなと思つております。

ほかに御意見がなければ採決に移ります。よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 5人とも帝国書院がよいという意見でございました。

改めて帝国書院を採択することについてお諮りいたします。種目「地図」については、帝国書院を採択することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 異議なしとのことですので、教科「社会」、種目「地図」は帝国書院を採択することに決定いたしました。

では、10分間休憩して、4時から後半を始めたいと思います。

〔10分休憩〕

○委員長 4時になりましたので、休憩を終わりました教科書の採択、始めたいと思います。

教科「数学」、種目「数学」を審議・採決をいたします。

指導室長より数学について説明をお願いいたします。

○指導室長 教科「数学」、種目「数学」について御説明申し上げます。

「東京書籍」、＜内容＞子供たちの生活と結びつけた内容がある。＜表現＞各単元のたしかめ問題がある。＜構成＞各単元に誤答例が記載され、つまずきやすい内容に配慮されている。＜地域性＞該当なし。＜使用上の便宜＞家庭学習でも使いやすいように、教科書の構成・使い方が掲載されている。

「大日本図書」、＜内容＞生活と数学とのかかわりを内容とした箇所がある。＜表現＞問題が解けないときに参照するページが表記されており、家庭学習で取り組みやすい表現になっている。＜構成＞各章末に「社会にリンク」というページが掲載され、生徒の興味・関心を持たせる工夫がされている。＜地域性＞該当なし。＜使用上の便宜＞巻頭に教科書の構成・使い方が掲載されている。

「学校図書」、＜内容＞環境問題、社会問題、身の回りの生活と数学を結びつけた内容がある。＜表現＞課題学習や自由研究のページがあり、生徒自ら学習できるような工夫がされている。＜構成＞必要に応じて吹き出し等を使用することで生徒の理解を補う構成となっている。＜地域性＞該当なし。＜使用上の便宜＞イラストがたくさんある。

「教育出版」、＜内容＞生活と数学を結びつけた内容を取り上げ、生徒の興味を持たせる内容がある。＜表現＞各単元のたしかめ問題がある。＜構成＞小学校での既習事項についての章を設けている。＜地域性＞該当なし。＜使用上の便宜＞イラストが多く掲載されている。

「新興出版社啓林館」、＜内容＞伝統文化と数学とのかかわりなど、数学の必要性を学ばせるような内容がある。＜表現＞問題を解けない時に参照するページが表記されており、家庭学習等

でも取り組みやすい表現になっている。＜構成＞学習内容に関連する既習内容を「ふりかえり」で取り上げている。＜地域性＞該当なし。＜使用上の便宜＞家庭学習の仕方やノートの取り方など、生徒の学習習慣の定着に関連する内容が掲載されている。

「数研出版」、＜内容＞1年生の内容では、小学校の復習が最初に掲載されている。＜表現＞説明の文章では、です・ます体と友達同士の言葉遣いで表現されている。＜構成＞巻末に「ぐんぐん伸ばそうチャレンジ編」として、問題を掲載している。＜地域性＞該当なし。＜使用上の便宜＞イラストが多く掲載されている。

「日本文教出版」、＜内容＞各章のとびらに導入のための課題が、見開きで掲載されている。＜表現＞家庭学習でも取り組みやすい表現になっている。＜構成＞1年の内容では、算数の内容を学び直すための「算数をふりかえろう」の章を設けている。＜地域性＞該当なし。＜使用上の便宜＞巻頭に教科書の構成・使い方を掲載し、家庭学習でも使いやすい工夫をしている。

全体に関する意見。生徒の興味や関心を持たせる工夫が必要である。家庭学習でも使いやすい内容や構成のものがよい。

以上でございます。

○委員長 教科「数学」、種目「数学」について説明がありました。御審議をお願いいたします。

高野委員から。

○高野委員 中学生の数学は小学生と比較し、難しくなるので、家庭でも学習できるように使いやすいことが大切です。そして、小学校から比べますと、取っつきにくくなり、いきなりグレードアップしてきますので、生徒の興味を引くところに重点を置かなければいけないと思います。だから、家庭学習でも使いやすく、かつ、興味を引きやすいものであるというその2点が極めて重要だと思います。日常生活と結びついている、それから単元毎に確かめ問題があって回答例の記載もある、これを使ってステップアップに結びつけていける、そして家庭学習においても使いやすいよう上手に構成され、使い方が非常にいいのではないかとということと、さらに数と式、図形、関数、例題、問題などのバランスがよく掲載されていることなどが大切だと感じました。今のバランスよくというのは東京都の参考資料を見て調べ、内容も確かめた箇所です。そういうことで、私は東京書籍がいいだろうと考えます。

それから、啓林館も大変よかったです。問題が解けないときに参照するページが表記されて、家でも十分に勉強されるよう工夫されていたのです。どちらにしようかなと考えたのですが、日常生活から結びついて入りやすいほうがいいだろうと思い、東京書籍のほうを推薦をした次第です。

○委員長 小林委員、お願いします。

○小林委員 数学ですが、選ぶポイントということで、まず生徒の関心を引き出すことがとても

重要だと思います。平成22年度の荒川区学力向上のための調査を見せていただきますと、教科などの勉強が好きかどうかということで、数学が好きという割合が大体50%台ということで、低いということから、生徒の関心を引くということが非常に重要です。

2点目ですが、数学は家庭で学習するということが非常に重要だと思いますので、家庭学習でも使いやすいという観点から各社の教科書を選定させていただきました。各社ともに非常に工夫がされていまして、なかなか選定には迷ったのですが、すぐれているということで、東京書籍と大日本図書ということで挙げさせていただきたい思います。

東京書籍ですが、まず全体の構成が、例があって、確かめ、問いという構成になっておりまして、易しい基礎的な問題から、さらに応用問題等段階的に学習できる内容になっています。比較的易しい問題が確かめ、というところにごさいますして、そこで達成感を感じて、さらにやる気を出させて、そして難しい問題にだんだんと挑戦していくような構成になっているということが指摘できます。新しい学習指導要領の基本的な考え方として反復、スパイラルによる指導というのがあるのですが、東京書籍の場合に反復しながら、自然に基礎から活用へと展開できる内容になっています。

それと、東京書籍を見せていただきますと、数学への興味を喚起できる内容となっています。例えば1年生の最初の正負の数のところ、導入部分で、プロゴルファーの石川遼選手のゴルフトーナメントの数値が掲載されていたり、またJリーグの得失点差というのがあります。スポーツというのは中学生にとって非常に人気のあるものですが、そういった数学への興味、関心を喚起できる内容になっているということが指摘できます。

次、大日本図書ですが、大日本図書も日常生活と数学とを関連づけて考えようということで、数学を非常に身近なものとしてとらえる工夫がされている点で、いいかなと思います。

それと、大日本図書の場ですが、数の大小といった、いわゆる抽象的な概念をイラストなどを使って具体的に示して理解させるという、そういった点で非常に工夫がされております。非常にわかりやすいという点でもいいのではないかと思います。

以上、2社についてコメントを述べさせていただきまして、非常に甲乙つけがたいところがありました。

ただ、基礎を着実にマスターした上で応用へと展開できる教科書が適切で、また若干東京書籍のほうが、レイアウトがすっきりしているかなというようなことから、総合的に判断いたしまして、東京書籍と考えております。

○委員長 お二人とも東京書籍ということのようでありました。青山委員、お願いします。

○青山委員 荒川区で習熟度別授業をやっている、それが最も効果を上げているのが数学だという人もいます。もちろん、ほかの科目でも当然必要だし、効果を上げていると思うのですが、でも、

それが数学を強調する人がいるのは、理解できるのは、やはり数学というのはどっかでつまずくと、その先に進めないと、だから授業をずっと受けていても、それが理解できなくなってしまうという要素は確かにあると思うんです。そういう意味で言うと、各単元別にどこで間違えるかということに記載して、どこかでつまずいて先に進めないようなことがないようにということで配慮している東京書籍、それから啓林館が参照ページを表記していると、これは探すので嫌になってしまうという場合あるし、探すこと自体が理解度によってはできないという場合もあります。もちろん教科書によってはどんどん進んでいくという子を相手にする教科書があつていいと私は思うのですけれども。

ただ、義務教育ですから、基本的にだれでもついていけるという内容を追求しているという意味で、東京書籍も啓林館も、そういう意味では中学校のどこかでついていけなくなる子が間々見られる数学という科目について言うと、この2社がすぐれているかなと、そう思います。強いて言えば单元ごとに間違った例を記載するところまで教科書で踏み込んだという点で、東京書籍を推したいと思います。

○委員長 お三方、東京書籍でございました。教育長。

○教育長 平成22年度の学力向上調査の結果では、算数・数学について、小学校3年生は87.8%が理解している。4年生は84.4%、小学校5年生は83.5%、6年生になると、78.1%になっているのですが、中1になると、いきなり下がって63.1%しか理解していないということで、小学校まではよく理解しているのだけれども、中学校へ行つてがくつと落ちてくる。つまずき、どこがわからないかがわかるということで、自分は今どこがわからないのだろう、どこでつまずくのだろう、分数でつまずいているのか、それとも小数点でつまずいているのかと、つまずきをきちんと発見できるということが大切であり、東京書籍は「わかるかな」「できるかな」「考えてみよう」とか、「マイノート」のとり方についても詳しく書かれている。私はいろいろな学校の授業参観に行ってみるのですが、ノートのきちんとしたとり方をしている子は一般的に学力が高いのです。

けれども、ノートのとり方自体がわからない子がたくさんいる状況ですので、中学生になって、 $8a$ とか、 $3x$ とか、ハイフンとか、そういうのが出てくると、急に嫌になってしまうのかわかりませんが、言葉の理解ができないから、わからなくなってしまうのです。特に、中学校の先生は3年の担任からいきなり中学校1年の担任になったときに、小学校から入ってきた子供に対する言葉遣いがわからないのです。イコールとか、不等号という言葉を使うから、先生がしゃべっている言葉が何の言葉かさっぱりわからないうちに授業が進んでいくという状況で、中学校の先生自身が小学校の子供に対するわかりやすい言葉で発問していくということをやっていないといけない。このような状況は、算数が嫌いになっていく原因になっていきますので、そういう

意味で東京書籍は、まず家庭学習でも使いやすいように教科の構成、使い方が配置されているということと、さっき言ったように自分の生活に結びつけた発問になっている、自分が振り返りながらできる、というのがいいと思います。

それから、啓林館も家庭学習の仕方やノートのとり方が具体的に書かれています。だから、振り返りということが、一番大切です。教科の中でわからないことをそのままわからないでやっていくから、算数、数学の場合はわからないことが1つあると、次がわからなくなるのですよ。掛け算がわからない子が幾ら頑張っても、高校、中学では対応できないことがある。分数ができない子は対応できないという状況になってきますので、そういうスモールステップの段階で教えていく。特に、私の長い経験では、数学の得意な先生ほど授業が下手なのです。子供がわかっていないことがわからないのですよ。こうなると、こうなる、という段階をもっと詳しく説明してほしいのですが、頭が良すぎてそれが説明できない先生だと、ぼんぼんぼんぼん段階が飛んでしまい、説明していることがわからない子供をつくるのではないかなと思います。中学校全体の課題でありますので、こういうわかりやすい教科書として東京書籍を推薦します。

○委員長 4人、皆さん東京書籍でございました。私の意見も同じでございます。先ほど小林委員から石川遼選手と、それからJリーグの得失点ですけれども、石川遼の場合はゴルフですから、どんどん引いていく、アンダー、アンダーとマイナスになっていく、得点のほうはプラスになっていくという、そういう写真です。私は東京書籍の2年生のところの、将棋のこまが出て、将棋のこま20個をずっと並べると丸くなるという、とても興味を引く写真だなと思います。あとサッカーのゴールのネットが六角形になっているという多角形の角の性質を調べようというところ、あと林家正楽さんの紙切り、紙を切って開いてみようという、こういう切って開こうというような図形の問題のところ、とても子供たちの興味や関心を持たせる工夫がされているということで、私も東京書籍にしたいと思います。

それでは、採決に移ります。

皆さん東京書籍がよいという御意見でございました。改めて東京書籍を採択することについてお諮りいたします。種目「数学」について東京書籍を採択することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 異議なしとのことですので、教科「数学」、種目「数学」は、東京書籍を採択することといたします。

続いて、教科「理科」、種目「理科」を審議・採決をいたします。

指導室長より「理科」について説明をお願いいたします。

○指導室長 教科「理科」、種目「理科」について御説明申し上げます。

「東京書籍」、〈内容〉身の回りの現象という視点で、実際の生活と密接である。「科学と職

業」や「科学と生活」のページが豊富である。＜表現＞既習事項に写真や図が豊富に使われていて、分かりやすい。＜構成＞生徒にとって具体的である化学領域から学習を始める構成になっている。＜地域性＞「金属の性質」で区内の産業でもある「へら絞り」が紹介されている。ただし、写真は大田区の製品である。＜使用上の便宜＞各単元末に学習内容の整理、確かめと応用がある。第1、第2分野で合冊となっている。

「大日本図書」、＜内容＞巻末に化学実験の基本操作が資料としてある。読み物（トピック）が豊富である。＜表現＞写真や図がわかりやすく表記されている。＜構成＞「自然界のつりあい」が「生命の連続性」の直後に配列されていて、指導しやすい。＜地域性＞身近な植物や現象を多く扱っており、生徒にとって内容を捉えやすい。＜使用上の便宜＞巻末の自由研究についての資料が充実している。第1、第2分野で合冊となっている。

「学校図書」、＜内容＞小・中の系統性を十分に意識した内容となっている。各単元末に「化学と仕事」のページがある。＜表現＞単元末問題は図が豊富で分かりやすい。＜構成＞「生物どうしのつながり」が「生命のつながり」の直後に配列されていて、指導しやすい。＜地域性＞身近な植物や現象を多く扱っており、生徒にとって内容を捉えやすい。＜使用上の便宜＞「高校へステップアップ」など巻末の資料が豊富である。第1、第2分野で合冊となっている。

「教育出版」、＜内容＞内容が多過ぎず、正確である。「実生活と科学」の読み物が豊富である。＜表現＞既習事項の記述である「思い出そう」が文章のみで表記されている。＜構成＞生徒にとって具体的である化学領域から学習を始める構成になっている。＜地域性＞身近な植物や現象を多く扱っており、生徒にとって内容を捉えやすい。＜使用上の便宜＞各単元末に要点と重要用語の整理、基礎・基本、活用・応用問題がある。第1、第2分野で合冊となっている。

「新興出版社啓林館」、＜内容＞内容が多過ぎず、正確である。分冊の「マイノート」は基本から応用まで身につけるワークブックとなっている。＜表現＞吹き出しの言葉が丁寧に記述されており、資料に対する解説になっている。＜構成＞「生命」→「地球」→「物質」→「エネルギー」→「環境」という独特の配列である。＜地域性＞身近な植物や現象を多く扱っており、生徒にとって内容を捉えやすい。＜使用上の便宜＞分冊の「マイノート」の扱いは、指導する教員の技量や工夫が必要となる。第1、第2分野で合冊となっている。

全体に関する意見。使い方、目次、導入の部分が生徒の興味・関心を高めるものになっているかが大切である。教科書は家庭学習においてベースになるので、使いやすさという視点も重要である。「エネルギー資源とその利用」の単元で原子力エネルギーや放射線について取り上げられている。

以上でございます。

○委員長 教科「理科」、種目「理科」について説明がありました。御審議をお願いいたします。

小林委員から。

○小林委員 理科ですが、選定させていただいたポイントとして、まず1点目は実験を重視しているということです。これは新しい学習指導要領の基本的な考えとしてあります。

2点目ですが、生徒にとってわかりやすく、興味を引く内容であるということが重要です。特に、日常生活における現象と関連づけて理解できることが必要と思います。

それで、荒川区の22年度の学力調査結果を見せていただきますと、理科に関して小学校段階では理科は好きという割合がかなり高く約80%が、理科が好きと書いているわけです。しかし、中学校段階では若干理科離れが進んでおりまして、好きの割合が若干減っているということから、生徒にとってわかりやすく興味を引くという点が非常に重要と思っています。

それと、3点目ですが、やはり学習におきましてきちんと反復練習をしながら家庭で学習ができるという点も重要です。この点から大日本図書、東京書籍、啓林館がいいと考えております。

まず、大日本図書からコメントをさせていただきたいのですが、実験を非常に重視しております。東京都の教科書調査研究資料を見せていただきましても、大日本図書は非常に、実験を扱った教材が多いと指摘されております。実際に教科書を読ませていただきますと、実験が非常に重視されていて、基礎的な実験に加えて、さらに発展させようということで、応用的な実験があるという特色があります。

それと、大日本図書ですが、図鑑のような非常にインパクトのある写真が多いです。また、実験の写真がクリアで、手順がよくわかると思います。

それ次、東京書籍ですが、まず1点目に、導入部分で日常生活にかかわらせながらインパクトのある写真を掲載して、子供の興味を引く内容であるということが指摘できます。

東京書籍の2点目ですが、各章の冒頭のところにこれまでに学んだことということで、小学校での学習を振り返る内容があります。理科という教科ですが、これまで学んできた知識と経験の上に初めて学習が成立するわけです。土台を一步一步踏み固めながら発展をさせていくということが必要です。これがないと、理科というのは、結局暗記科目となってしまうと、現在、深刻な問題として指摘されている理科離れを促進してしまうのではないかと気がいたします。その点、東京書籍は、これまでに学んだ小学校段階での学習を踏まえて学習を展開しています。これは小学校と中学校との連携という意味でも非常にすぐれているのではないかなと考えております。例えば、1年生の身の回りの物質とその性質ということで、これまでに学んだことの中で、どのようなものが電気を通すだろう、鉄のくぎはどうか、木のつまようじはどうかといった、そのような知識の確認が行われています。

東京書籍、3点目ですが、実験を非常に重視しているということもそうなのですが、実験の中で観察すべきポイントが明確に示されています。実験をするというのは非常に重要なことですが、

それ以上に重要なことが実験での観察結果として考えると、分析するという事です。その意味で、東京書籍の場合に実験を踏まえた上での思考の道筋が示されていて、教科書としては非常にいいのではないのでしょうか。

それと、3社目の啓林館につきまして、「マイノート」が啓林館はございまして、「未来へひろがるサイエンス」「マイノート」で考え、表現するという事から、実際に学んだ内容を表現しようといった、これが加えられております。これが家庭の学習においても、また復習する上でも非常に便利で工夫がされてございまして、非常にいいなと思います。

以上3社についてコメントを述べさせていただいたのですが、総合的に考えてまいりますと、小学校段階で学んだ基礎を踏まえた上で、一步一步着実に応用へと展開していくということが重要ということから、東京書籍がいいと考えます。

○委員長 東京書籍がよいということございまして。では、青山委員。

○青山委員 小林先生に今いろいろなことを述べていただいて、ほとんど賛成なのですが、別の角度からの点で言いますと、東京での災害をどうとらえているかということ、近年の東京の災害は、実は火山噴火が多いのですけれども、これについて東京書籍は三宅島の2000年噴火も伊豆大島の1986年の噴火もどちらも取り上げ、扱っています。大日本図書は、三宅島について、2000年噴火だけではなくて、1983年の噴火も取り扱っています。加えて大日本図書は、全国の火山の一覧表を地図で載せてございまして、東京は全国47都道府県で最も活火山を持っている県なので、そういう意味では大日本図書は地域性があるかなと、そう思います。学校図書も三宅島、教育出版も大島が載っています。啓林館も三宅島、大島とも取り上げています。

次に、理科というのは非常に理科教育の中で数学と並んで苦手な子がある程度いる科目だと、そう思いますけれども、そういった意味では、東京書籍についてはわかりやすいという表現を選定調査会はしていますけれども、一方、啓林館については「マイノート」という分冊があつて、これについてはノートをつくってあげたほうがいいのか、それとも自分でつくらせたほうがいいのかという点で、でも、つくってあげるのも1つのアイデアであつて捨てがたいと、そういうふうに思います。

ということで、大変迷うところなのですが、基本的に理科についていけない子をなくすという意味から言いますと、東京都の分析で、各教科書のそれぞれの項目数についての丹念に調べ上げた計数があるわけですが、それが東京都の調査結果の183ページに載っています。これによると、東京書籍が一番項目数が少ないという結果になっています。これはそれぞれ内容は同じなので、結局それぞれの項目について総体的に詳しく述べられていると考えると、東京書籍が一番いいかと、そういうふうに思います。

○委員長 お二方、東京書籍ということございまして。では、高野先生。

○高野委員 大変難しいのですが、私は、まず大日本図書は実験が多くて、生活の身近なところから入ってきて、スムーズにいかけて、とてもいいのではないかと思います。特に植物に関しては牧野富太郎先生から入って、植物が理解しやすいです。放射線のことについても書かれています。そして、体のことにつきまして保健体育との兼ね合いもありますけれども、書かれています。理科全般とすると、特に実験をするということは大切なことで、探求する能力を養う、観察して実験して、工夫とか、想像力を養うということで、そういうところが非常によく書かれているように思うのです。

もう1つ、先ほどから話題に出ている啓林館です。啓林館は、原子力、原子及び原子力発電所のことなどが出ていまして、少し細かいかな、難しいかなと思うのですが、このところはバランスよく、生命、地球、物理、エネルギー、環境と、全般的に書かれています。それから、特出すべきは「マイノート」があるということ。「マイノート」を使うことが果たしていいのかどうか、学習というのは自分で繰り返して、「マイノート」を自分でつくる、工夫することによって覚える、記憶し、理解するというふうにして、大変これも迷うところなんです。原子、あるいは原子エネルギーについて、特に啓林館が原子力を詳しく書いています。社会の動きがこの知識を必要としてきています。結論として私は、大日本図書です。

○委員長 大日本図書ということでございます。教育長お願いします。

○教育長 先ほど小林先生の話にありましたように、理科について小学校4年では90.5%の子どもが理解しているのに子供が中学校2年になると60.4%、約30%の子供が理科が分からない。理科を嫌いになっているのです。なぜ嫌いになったのかという原因を調べたときに、先生方がつい忙しさの中で、実験しなければいけないのに実験していないということもあるようなのです。

学力向上の調査で理科の点数が高い学校を見ると必ず実験しているのです。教科書がずっと同じ教科書であると、教材研究しないのかなという、そういう言うてはいけないことがあるのですが、だから今度、新たな理科の実験を1学期に何回したかというのを校長先生に研究してもらおうかなと思っています。硫黄やアンモニアのおいをおいとか、いろんなものを実際自分が試したりしてから教科書を見ると、わかるのですよね。やはりそういうことを含めて、東京書籍については本当に実験が多く入り、その実験の中で考察していくというのがすごく書いてあります。

だけど、荒川区の今までの状況を見てくると、啓林館は1年、2年、3年と、生命、地球、物質、エネルギー、環境という4つの配列に決まっているのですよね。だから、子供は頭の中に、今物質をやっている、エネルギーをやっているというふうに3年間で頭が整理できて、よいかと思います。それから、「マイノート」についてですが、家庭学習をしない子がすごく多いのです。

だから、これをもって毎日やってきたかどうかというのをちゃんと先生がチェックするだけでも、相当力がつくのではないかと思うのです。もちろん、ほかの課題もありますけど、これを徹底的にやれば、荒川区の理科の学力が上がってくるのではないかなという感じがします。私は本当にいろんな調査結果の中で、啓林館の「予想してみよう」、「考えてみよう」、「話し合ってみよう」という考察点と、いろんな面での教師のいろんな力量差がある中で、これを活用することによって力がつくのではないかということで啓林館を推薦します。

○委員長 教育長は啓林館を推薦するというので、東京書籍が2人、大日本図書が1人、啓林館が1人でございます。私の見解は、大日本図書と東京書籍がいいなと思っていたのですが、東京書籍の1年生の4ページに身近な生物を観察しようと、石を持ち上げてダンゴムシを見たり、いろいろ身近な生物を観察しようというところが「新しい化学1年」、東京書籍にあるのですが、けさ6時半からラジオ体操をやっておりましたが、中学3年生の女の子が毎日来ているのですけれど、木のところで写真を一生懸命撮っているの、「どうしたの」と聞いたら、「ここにセミの抜け殻が」と。「セミの抜け殻はいろんなところにあるよ」と言ったら、「そうじゃないんです。今出てきたんです。」と言うのです。それで、見たら、セミがちょうど羽化をして、中から出てきて、全く動かない真っ白なセミが前足2本だけでぶら下がっていました。多分今はもう飛んでいっただろうと思うけれども、朝、子供たちがそれを見てどういうふうに反応したかはわかりませんが、私は「新しい科学」、東京書籍の「身近な生き物を観察しよう」というのは、これを採択しなさいというセミの声じゃないかなと思ひまして、私は東京書籍を推薦いたします。

それでは、皆さんの御発言がございました。採択に移ります。

分かれましてけれども、東京書籍が過半数の3人に達しました。東京書籍を採択したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 それでは、教科「理科」、種目「理科」につきましては、東京書籍の教科用図書を採択することに決定いたしました。

続いて、教科「音楽」、種目「音楽一般」を審議・採決いたします。

指導室長より「音楽一般」について説明をお願いいたします。

○指導室長 それでは、教科「音楽」、種目「音楽一般」について御説明申し上げます。

「教育出版」、＜内容＞各教材の左ページに指導内容の要点や観点が記載されている。伝統音楽の分量が多い。＜表現＞有名人からのメッセージはベテランの芸術家が出ている。民謡はイラスト入りで分類されている。＜構成＞指導要領の内容以外に、発展の力をつけるための題材が設けてある。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞伝統音楽を中心に雅楽などは詳しい図解があり、指導しやすい反面音楽の解説以上の事柄がある。

「教育芸術社」、＜内容＞目次に、各教材ごとに指導要領の観点が明確に記述されている。アルトリコーダーの分量が多い。＜表現＞有名人からのメッセージは若手の芸術家が出ている。写真が多く、見やすく画質もよい。＜構成＞オペラや歌舞伎は、上演されるまでの過程について書かれている。ビンゴゲームが系統的に各学年で掲載されている。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞創作や表現の工夫などを思考し、まとめるページを設けている。巻末の音楽記号が表になっており使いやすい。

全体に関する意見。系統性を考えて、音楽（器楽）と同じ出版社がよい。

以上でございます。

○委員長 教科「音楽」、種目「音楽一般」について説明がありました。御審議をお願いいたします。教育長。

○教育長 ただいま選定調査委員会の報告では、系統性を考えて、器楽合奏と同じ出版社がよいという意見がありました。また、現在、23区の状況を見ましても、18区が音楽の一般と器楽合奏を同一の発行会社の図書を使用している状況であります。この選定調査委員会の意見、あるいは音楽一般と器楽合奏とを同一のものとする事による学習指導や子供たちにとってのメリットについて、指導室ではどのように考えていますか、見解をお願いします。

○指導室長 音楽の場合では、音楽一般で扱った楽曲を系統立てて器楽合奏で扱うといったようなことが行われております。例えば、一般で鑑賞の授業を行った際に、その後で器楽合奏で同じ曲の一部を合奏するといった、そういった授業が行われておりますので、同一の発行会社のほうが子供たちの学習活動の幅が広がるといったようなメリットがあるというようにとらえております。以上です。

○委員長 ただいまの説明を踏まえますと、特に同一の教科書とすることにより問題が生じなければ、音楽一般と器楽合奏の教科書を同一のものにすることが望ましいものと受けとめられます。そのため、委員の御異議がなければ、器楽合奏の説明も聞いた上で、あわせて一体のものとして具体的な御審議をいただこうと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 異議なしとのことですので、そのように進めます。

それでは、音楽一般の審議・採決は器楽合奏とあわせて行うものいたしますので、教科「音楽」、種目「器楽合奏」について説明をお願いします。

○指導室長 教科「音楽」、種目「音楽（器楽合奏）」について説明いたします。

「教育出版」、＜内容＞和楽器のページが充実している。巻末にギターダイアグラムがある。＜表現＞教材は、比較的高度な曲を精選している。＜構成＞アルトリコーダーのサミングや息の量などの説明がわかりやすい。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞ラテンパーカッションの

奏法など、打楽器について多く扱っている。

「教育芸術社」、＜内容＞アルトリコーダーの楽曲は、生徒になじみのあるものが多く、親しみやすい。＜表現＞曲のタイトルの右側に、その曲に関連する共通事項が明確に示されている。＜構成＞アルトリコーダーの曲が、易しい曲から難しい曲の配列になっている。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞箏の奏法の写真が演奏者側から見たものが多い。

全体に関する意見。系統性を考えて、音楽（一般）と同じ出版社がよい。

以上でございます。

○委員長 教科「音楽」、種目「器楽合奏」について説明がありました。

先ほど確認させていただきましたように、音楽一般と器楽合奏をあわせての御審議でございます。どうぞ御審議をお願いいたします。高野委員から。

○高野委員 荒川区は音楽バンドが小学生のころから盛んに行われています。アルトリコーダーを十分に使って、それが楽器に触れる初歩であろうと思うのですが、それからもう1つ、荒川区の感性を磨くのに教育のために、琴をやったり、非常に音楽活動が立派なのです。そういう点をもっと中学生になって成長させる、創作や表現までも多くいくという意味で、教育芸術社を推薦いたします。特に、地域性、「赤とんぼ」や「夕焼け小焼け」というのも含まれていますので、そういう点から考えますと、教育芸術社を推薦いたします。

○委員長 それでは、小林委員お願いします。

○小林委員 音楽、まず一般のほうですが、教育出版を見ますと、特色としては伝統音楽の分量が多いということです。また、教育出版ですが、比較的に高度な曲が多いと言えらると思います。

それと一方、教育芸術社ですが、どちらかと言うとポピュラーな曲が多いのかなという気がいたします。教育芸術社を見せていただきまして、非常にいいと思う点がございまして、それがまず1点目として、自分の声に気づき、自分らしさを表現しようといった内容を重視しているという点でございます。声は人それぞれですが、それぞれの持つ個性や魅力を生かした発声法を指導しようとしている点が優れていると思います。

2点目ですが、教育芸術社の場合に音楽やゲームによる創作及び表現活動を重視しておりまして、これが新しい学習指導要領の趣旨に沿うものかなと思います。

それと、一方音楽・器楽のほうを見ますと、調査研究報告でも指摘されていますが、演奏の奏法が、演奏者側から見たものが、教育芸術社のほうがあるということでございます。

以上から判断をさせていただきますと、総合的に考えて、音楽は教育芸術社がいいと考えます。

○委員長 はい。教育芸術社ということでございます。では、青山委員。

○青山委員 私は荒川区の音楽教育というのは、一般の区民の皆さんも見ていると思いますけども、いろいろなイベントやセレモニーのときにすばらしい演奏をされるし、すばらしい歌を歌ってい

ます。そういう非常にいい状況をつくっていると思います。ほかの科目も決してレベルは低くないのですが、特に、音楽の演奏とか歌を歌うという意味で言うと、非常に荒川区のレベルは高いと、そう思います。

そういう意味で言うと、この教科書ということでやはり創作についてのヒントだとか、入り口だとか、そういったことを示しているのは教育芸術社のほうが相対的にあるかなと、そう思いますのでこちらを推したいと思います。

○委員長 はい。教育芸術社3人になりました。教育長。

○教育長 3日前ですけど、第六瑞光小学校全校生徒が東京武道館でマーチングバンドをやりました。もう私は涙が出そうになりました。特別支援に関わる子どもたちのお母さんも泣いていましたが、本当にきちんとした行進をしながら、すばらしい演奏を東京武道館で堂々とやって、銀賞ということで、今度、有明に行くことになりましたけれど、そういう意味で本当に先生方のレベルが高く、行進をしながらトランペットを吹いたり、金管、木管の役割とかそういう……。ただ、今荒川区は伝統文化をすごく尊重していきまして、各地域のお琴の先生とか、三味線の先生とか多くの学校にそういうものを生かしていきます。

そういう中で、この全体の構成からいくと教育芸術社のほうが、すごく具体的でわかりやすく、そして子供たち自身がどういうふうにすればいいかという内容が、すごく豊富になっていることと、新しい学習指導要領の中で、日本の伝統文化と、また国際社会の進展の中で、世界の国の音楽についての理解を深めていくということがきちんと出ていますので、教育芸術社がいいと思っています。

○委員長 はい。もう4人教育芸術社なので決まりだと思います。教育芸術社の2年、3年の上を開けると、いきなり大きな梵鐘と水琴窟があるので圧倒されました。静けさと大きな音、私も教育芸術社がよいかと思います。

それでは採決に移ります。全員が、教育芸術社ということでございますので、音楽一般と器楽合奏同一として採決をすることにいたします。

教育芸術社を採択することに異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 異議なしとのことですので、教科「音楽」、種目「音楽一般」並びに教科「音楽」、種目「音楽（器楽合奏）」については教育芸術社を採択することに決定いたしました。

あと5つ。続いて、教科「美術」、種目「美術」を審議、採決をいたします。

指導室長より美術について説明をお願いいたします。

○指導室長 教科「美術」、種目「美術」につきまして、まず、「開隆堂出版」、＜内容＞驚き・発見・暮らしと文化を軸とし、文化としての「美術」を追求する内容になっている。＜表現＞生

徒に考えさせたり、話し合わせたりする表記が多い。＜構成＞単元の配列は難易度順ではなく、単元分野別である。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞作品等を説明する文章を簡易に掲載している。作品を掲載している紙質は光沢を落としている。

「光村図書出版」、＜内容＞美術への扉、美術への広がり、美術の力など、「美術」とは何かを追及していく内容になっている。＜表現＞単元により高度な説明の文章による表現をしている。＜構成＞領域ごとに構成され、教員にとって指導しやすい。描くことが好きな生徒にとっては、学習しやすい構成になっている。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞左上の単元の色分けが、生徒にとって使いやすい。見開きページが多く画面が大きい。

「日本文教出版」、＜内容＞生活の中に生きる美術、社会に広がる美術を軸とし、生活と社会の中で美術がどう生きているかを追究している。＜表現＞作品と文章のバランスが良く、見やすい表現になっている。一つ一つの作品が適度な大きさに、学習しやすい。＜構成＞「見る・感じる・つくる」というテーマを設けた構成になっている。造形、デザイン系の学習内容が多くなっている。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞作品の解説が丁寧で、指導に活用しやすい。制作過程、生徒作品も多く分かりやすい。

全体に関する意見。有名作品を主とするか、生徒作品が適度に組み込まれているか、作業のときの手先の写真が多いなど、出版社によって傾向がはっきりしている。教科書の内容を全て指導するのは難しく、教員が指導計画に従ってピックアップして扱う。

以上です。

○委員長 はい。教科「美術」、種目「美術」について説明がありました。

御審議をお願いいたします。青山委員から。

○青山委員 美術については、中学の場合には美術史を本格的に学ぶというところまではいかなくて、むしろある意味思春期の時代なので、感性を豊かにするというところで美術に触れる出発点という位置づけだと思います。

現に指導要領でも、表現及び鑑賞と広い活動を通して美術を愛好する指導によって感性を豊かにして、美術についての理解を深め、豊かな情操を養うと端的に書かれております。したがって、美術全体についての基礎的な事項が盛り込まれているかということが1つと、それから指導要領にもあるように関心を高めるという意味ではそれが好きになると、美術が好きになるということが必要だと思います。

そういった意味から言うと、絵を描くということは小学校からずっとやっていて、それはもうできていると考えると、造形とかデザイン系について、美術というもののジャンルを広げていくというのが中学という認識だと、そう思います。

そういう意味で言うと、日本文教出版が造形、デザイン系の学習内容が多くあるという評価も

できると思いますので、これを推したいと思います。

それから、美術に対するいきなり興味を引くという意味で言うと、これが主たる理由ではないのですが、日本文教出版はいきなりゴッホが出てきて、これは美術とか絵のロマンに対していぎなうという意味ではいいと、そう思います。

光村出版のライオンもいいのですけれども、でもシャガールがせっかくでてくるのに、表紙をめくらないとシャガールが出て来ない。これは決め手でそういつているわけではないのですけれども、中学の1年で、いきなりゴッホが表紙にあるのは、これはもっとも日本人に好かれている印象画の、その中でも最も好かれている一人であるゴッホということで、かなり一般的でいいのではないかと、そういうふうに思います。

○委員長 はい。小林委員。

○小林委員 3社についてコメントを述べさせていただきたいと思います。

まず開隆堂ですが、開隆堂の特色といたしまして、生徒の作品が多いことが指摘できます。そのために、十分親しみが持てる内容であり、自分も制作してみようという気持ちになるのではないかなと思います。開隆堂の教科書を見せていただきますと、美術で楽しもうというか美術で遊ぼうというか、そういった楽しさがあります。

それと、光村ですが、これも有名な作品が掲載されており、また高度な説明の文章がありまして、美術や美術史に深く興味を持つ生徒には非常にいいのではないかなという気がいたしました。

3つ目、日本文教出版ですが、有名な作品と生徒の作品とのバランスが非常によいかと思います。美術という教科におきましては、優れた作品に触れて感動するということが、まず、重要です。それとともに生徒の優れた作品を紹介して、生徒にも自分でつくって見ようという意欲を喚起するということが重要です。その意味で、日本文教出版の教科書はバランスがとれているのではないかと思います。

また、教科書選定調査会の研究報告におきましても、学習しやすい、また指導に活用しやすいということが指摘されておりますので、以上から総合的に判断して日本文教出版がいいと思います。

○委員長 はい。では、高野委員、お願いします。

○高野委員 前にお話しした先生方とほぼ同じ考え方なのですが、日本文教出版ですが、これを見ますと、まず感動を与えてくれる、そして感性を磨いて人間性を豊かにするだろうというふうな夢のある本に思います。

さらに、生活と社会を結びつけて、美術の役割、日本の伝統の作品、例えば蒔絵とか、そういうところを十分に生かして、先生方がお教えしようという立場にたっていると思います。

さらに、先ほど小林先生の後半のお話にございましたように、造形、デザインについても、十

分に生徒自身に考えさせて感性を磨かせようというようなことが書かれておりまして、やはり最初にお話ししましたように、日本文教出版がよいと思います。以上です。

○委員長 はい、教育長お願いします。

○教育長 美術についてですけど、光村については暮らしの中の美術作品、ここが主になっていると思います。その中で、特に作品の解説が丁寧で指導に活用しやすい、それから制作過程がきちんと書いてあって、生徒にもそれを見ながら、こういうふうにつくっていくのだということを具体的に視覚に訴えている。

次に、日本文教出版ですが、見る環境をつくるというテーマで、本当によくできているなという感じがします。

開隆堂については、ちょっと説明が少ないために、やはり指導が難しいのではないかなというところがありますが、生徒の作品に反映する統一性がちょっとあって、わかりづらいところがあるのではないかなという感じがしました。

全体的に作品と文章のバランスがよく、見やすい表示になっている日本文教出版がいいと思います。

○委員長 はい。4人とも日本文教出版でございました。私も日本文教出版の、その1年生の36ページ、和風を味わうという手ぬぐいのデザイン、その他書かれておりまして、その日本の伝統的な装飾、表現を学ぼうということはとてもいいなと思います。

私も日本文教出版を推薦いたします。ほかに御意見ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 ないようであります。5人とも日本文教出版がよいとの意見でございました。

改めて、日本文教出版を採択することについてお諮りいたします。種目「美術」について日本文教出版を採択することについて異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 異議なしとのことですので、教科「美術」、種目「美術」は日本文教出版を採択することに決定いたしました。

続いて、教科「保健体育」、種目「保健体育」を審議、採決をいたします。

指導室長より「保健体育」について説明をお願いいたします。

○指導室長 教科「保健体育」、種目「保健体育」でございます。

「東京書籍」、＜内容＞生徒に対する設問が多く、授業の中で考えさせることができる。性に関わる内容がよくまとまっている。＜表現＞グラフや写真が分かりやすく、見やすく表記されている。＜構成＞各頁にキーワードが書かれており、分かりやすい。確認の問題、活用の問題が単元ごとにあり、まとめが充実している。＜地域性＞特に記載されていない。＜使用上の便宜＞保

健編が先、体育編が後で使いやすい。巻末のキーワードの説明と索引がわかりやすい。

「大日本図書」、＜内容＞思春期における責任ある行動の内容について内容を絞って記述している。性に関わる内容の絵や表は見やすい。＜表現＞写真、図が適切に使用されている。応急手当が分かりやすい。＜構成＞単元の要点がまとめられている。学習指導要領の構成に沿って単元構成されている。＜地域性＞口絵の中に北島康介の写真がある。＜使用上の便宜＞体育編が先、保健編が後になっている。

「大修館書店」、＜内容＞文章や表、グラフの説明で大まかに記載されている。性に関わる内容はイラストが大きめに掲載されている。＜表現＞背景がカラーになっている。保健編では写真よりもイラストが多い。＜構成＞注釈が多い。学習指導要領の構成に沿って単元構成されている。＜地域性＞口絵の中に北島康介の写真がある。＜使用上の便宜＞体育編が先、保健編が後になっている。

「学研教育みらい」、＜内容＞設問が工夫されている。絵や図などが以前と同じようなもので構成されている。＜表現＞内容によってグラフを活用している。小見出しは見やすい。＜構成＞注釈が多い。学習指導要領の構成に沿って単元構成されている。＜地域性＞特に記載されていない。＜使用上の便宜＞保健編が先、体育編が後で使いやすい。索引がわかりやすい。

全体に関する意見。性に関する指導が重要で、中学生にとって必要な情報が扱われており、正しい判断力を身につけることのできる教科書がよい。自分の身体について生徒が基本的な知識理論を学ぶことができる教科書がよい。自分自身や学級の友達と、課題を解決するためにきちんと考える内容を盛り込んだ教科書が望ましい。

以上でございます。

○委員長 はい。教科「保健体育」、種目「保健体育」について説明がありました。御審議をお願いいたします。高野先生。

○高野委員 大日本図書がいいと思います。と言いますのは、健康及び身体の生理について十分に取り上げられています。そして単元がきちんと分かれています。特に中学生が興味を示す成長期の諸問題、性に関して、また喫煙たばこの問題、喫煙が胎児に及ぼす影響、アルコールや薬物の恐怖、エイズ、ストレスの対応とか、心の問題まで大きく踏み込んで、最近問題となっているところに、非常に視点が置かれているように思います。

それから、運動の大切さとその意義についても十分述べておりまして、技術のほうも若干ほかの本に比べて触れているように思いました。

○委員長 はい。それでは小林委員お願いします。

○小林委員 教科書選定調査会の調査研究報告を読ませていただきますと、性に関わる指導が重要で、中学生にとって必要な情報が使われており、正しい判断力を身につけることのできる教科書

がよいと指摘されています。それから考えますと、大日本図書と東京書籍がいいと思っております。それで、大日本図書を見せていただきますと、写真や図がリアルでインパクトがあるということが、1点目として指摘できます。

また、中学生というのは自分の成長を果たす段階の中で、自分を見つめ直すという非常に重要な時期と思うのですが、その意味で心そして体について、詳しく書かれている点がいいと思います。

それと、大日本書籍ですが、口絵の中に荒川区出身の水泳選手の北島選手の写真がありまして、これも非常にいい点です。

また、東京書籍ですが、思春期の青年の問題が論じられていて、いいと思います。総合的に判断いたしますと、大日本図書がいいと考えます。

○委員長 はい。青山委員、お願いします。

○青山委員 私は、結論的に言うと学研教育みらいを推したいと思います。ほかの点では選定調査会の報告にありますように、当然のことですがいずれも学習指導要領の構成に沿って単元構成されていて、保健が先か、体育が先かのそういった違いはあるわけですが、それほど相違はないと思います。いずれも読んで興味深いし、性教育についても当然のことながら、いずれもきちんと取り扱っていると思いますが、しいて差を上げると、学研の場合は学習の確認、知識の活用というところが、いわゆる試験問題方式ではなくて、非常に工夫された形で、「十分」「大体」「もう少し」と、そういった問いかけをしていて、それをチェックしていくということでやりやすいかなと思います。

保健体育の場合は実技もありますし、ややもすれば教科書は、ぱっと見ればいいやということになりがちではないかとも思うのですけれども、その場合に、あまり試験問題的な形で復習とかチェックをさせるよりも、こういう工夫された形で、クイズ的な楽しみみたいな形でチェックしていくという、そういう新しい試みをしているという点で、学研を推したいと思います。

○委員長 はい。大日本が2人、学研が1人、教育長。

○教育長 今度は、中学校は武道が必修課目になるという、その大日本のページ数についても多く載って、武道の必修化に伴い、やはり大日本がいいなど。それと、心身の健康の発達ということで、東京書籍も大日本も本当によくとらえています。

今、心身と健康ということで、不登校とか、いろいろな面で、高校でも、高校に入ったはいいが、中退してしまっている子どもたちがいるという状況が続いています、私立、都立もですね。

そういうことからつきつめて、今からの教育で大事なものは身体の健康とともに心の健康ということをも十分取り上げていかなければいけないということ、それとそういう意味で武道をしっかりとやって、心身を鍛えて、日本古来の柔道や弓道を含めて、きちんとやっていくということが新し

い学習指導要領の中で必要であるということで、私は大日本を推薦いたします。

○委員長 はい。大日本が3人になりました。調査研究報告書によると、東京書籍と学研みらいは保健編が先、体育編が後で使いやすいと書かれています。大日本図書と大修館書店は体育編が先、保健編が後になっている。使いやすいという言葉がないのだけれども、体育編が先で、保健編が後だと使いにくいのでしょうか。指導室長。

○指導室長 調査等部会等の調査報告の中では、やっぱりそういった意見が出ております。

○委員長 それは授業を扱うときにですね。大日本図書のスポーツは、「誰もが健康で住みよい世界にしよう」ということで、1ページから約50ページにわたってスポーツが最初にあるのだけれども、後半に保健編をないがしろにするわけではなくて、100ページにわたった保健が載っていますので、それをどちらから先に授業を進めようというのも、教員の授業の使い方なんだろうと思うけれども、私は大日本図書を推薦いたします。

それでは、4人、大日本図書でございましたので、大方の意見が大日本図書ということだろうと思いますが、ここで種目「保健体育」について、大日本図書を採択することに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 はい。異議なしとのことですので、教科「保健体育」、種目「保健体育」は大日本図書を採択することに決定しました。

続いて、教科「技術・家庭」、種目「技術分野」を審議、採決をいたします。

指導室長より、「技術分野」について説明をお願いいたします。

○指導室長 教科「技術・家庭」、種目「技術分野」でございます。

「東京書籍」、＜内容＞問題発見・計画立案・実行・評価という、問題解決のプロセスに沿った学習形態を重視した内容になっている。＜表現＞安全確保を重視しており、機械操作などの分野でイラストや写真にして見やすい工夫がされている。＜構成＞イラストや写真で、ものづくりだけでなく、作物の栽培や情報の分野、環境問題も含めてバランスよく配置されている。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞導入の「これからの学習」は生徒にとって分かりやすい。

「教育図書」、＜内容＞記述の内容は正確であり、内容の量は、生徒にとって適している。＜表現＞教育図書では、つくり方など手元の写真や絵がとても分かりやすい。＜構成＞プログラムをパソコンでしっかりやってみたい生徒にとっては、工夫されていて分かりやすい。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞写真が多く、生徒にとって理解しやすくなっている。

「開隆堂出版」、＜内容＞社会生活と技術の関連に視点をあて、生徒たちの身近なものと生活を結びつけ、理解しやすいように工夫されている。＜表現＞「さあ、技術の扉を開こう」という導入があり、技術への関心を高める工夫がされている。＜構成＞作物の栽培や、情報の分野で写

真が使われ、分かりやすい工夫がされている。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞生徒にとっては用語が多いが教員にとっては解説書として活用できる。

全体に関する意見。写真が多く、非常に分かりやすくなっている。見開きで見やすいかどうか、分かりやすさの1つの大事なポイントである。情報技術が大切な時代になってきたが、情報の分野についてもかなり踏み込んだ教科書になっている。

以上でございます。

○委員長 教科「技術・家庭」、種目「技術分野」について説明がありました。御審議お願いいたします。小林委員。

○小林委員 まず、3社のうちで開隆堂からコメントを述べさせていただきたいのですが、生徒たちも身近な日常生活に接して、理解しやすいように工夫がされております。開隆堂「技術分野」ですが、最初のページ、2ページ目を見ますと、東京のスカイツリーなどがありまして、この点からもいいのではないかなと思います。

それと、2番目、教育図書でございますが、いろいろな作業をしてもものをつくっていくわけですが、このつくり方の写真が見やすく、わかりやすくなっています。例えばフラワーポットスタンドをつくろうとかいった、写真ですが、非常にわかりやすいという良さがあります。

次、東京書籍ですが、生徒に考えさせるというか、そういった工夫がされております。チェックなどがありまして、そういった特色がございます。3社を総合的に判断いたしますと、開隆堂がいいと思います。

○委員長 では、青山委員。

○青山委員 「技術・家庭」というのは、意外と内容が豊富で理科の知識から社会の知識までいろいろのところを多岐にわたっていて、案外学びにくい、学ぶのには結構大変な科目だと思います。

そういう意味では、選定調査会の報告にあるように、開隆堂は用語が多くて、教員にとってはその豊富な用語を解説書として活用できるという趣旨の報告がありますが、まず、この点で基本的なことをお伝えできる。これは学習指導要領で言っている生活に必要な基礎的、基本的な知識技術の習得として、生活と技術についての理解を深めるという学習指導要領の目標からすると、1つの利点ではないかと思います。

それから、もう1つは、小林先生もちょっと言っていましたけども、この開隆堂の開くといきなり東京スカイツリーが出てくるというのも、荒川区の子供たちは墨田区に所在しているかもしれないけど、毎日これを見ているわけなので、そういう意味ではこの「技術・家庭」という非常に多岐にわたって学びにくい科目に導入部分としては、荒川区の子供たちにはいいのではないかと、そう思います。

○委員長 次、高野委員お願いします。

○高野委員 「技術・家庭」の技術は、やはり生活の工夫をいかにするか、そしてそこから想像力をいかに発展する能力をつくって応用、人間としての応用の幅を広くするかという観点から考えました。

そうしまして、特に荒川区は衣食住に関して、初めに並べる配列がいいというサジェスションをいただいております。そういう点から見まして、開隆堂は荒川区に適した内容で技術を高める記載があって、家庭菜園においても植物を育てるなど写真が十分使われていてわかりやすい内容でありました。

東京書籍は、身近なところから生活事象に必要な知識が書かれておりまして、生活に役立つ内容だなあと、写真も美しいけれども、一部ちょっとめくりますと見にくいところがあるなど、そんな感じでありました。

どちらがいいか考えまして、身近なところから生活の事実を、事象に必要な知識が書かれているほうがいいかなと思ひまして東京書籍を推薦したく思います。

○委員長 はい。東京書籍が1人、開隆堂が2人でございます。教育長。

○教育長 勤労に関する、職業科に関する事項に入れられている箇所は、やはり東京書籍が10、そして開隆堂が10、そして、それについては東京書籍も開隆堂もいいなと感じました。

その中で特に、安全に関する事項を取り上げているのが一番多いのが、開隆堂です。「技術・家庭」というのは、のこなどの道具を使ったりするとけがをする場合がすごく多いのです。だからそういう意味では安全に関する事項を取り上げている箇所が多い、やはり開隆堂がいいということと、情報に関する技術に関しても開隆堂が35.8%という形で、まさにインターネットで情報社会になる中で、すごくいいなと思ひます。

それと、東京書籍に関してはすごく考えさせる、ガイダンスするページがアトムを使って、その点は親しみやすいなという感じがします。本当に工夫されているなという気がしますけれど、順番的に開隆堂は教員にとっても生徒にとっても、「さあ、技術の扉を開こう」という導入があって、技術に関心を高める工夫があるので開隆堂がいいなということです。

○委員長 はい。開隆堂が3人になりました。私も開隆堂がよろしいかなと思ひます。東京書籍のほうも良くできているのですけれども、動物を育てようという、後のほうに牛の飼育だとかありましたね。

前回使用していた教科書は開隆堂ですよ。違いますか。

○教育長 今までの「技術・家庭」は開隆堂だそうです。

○委員長 今まで開隆堂なら、同じ「技術・家庭」というのは教える先生が、あまり教科書が変わらないほうがいいのではないかなと僕は思ひます。あらかた開隆堂ということでございます。

改めて開隆堂を採択することについて、お諮りいたします。種目「技術分野」について開隆堂

を採択することに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 異議なしとのことですので、教科「技術・家庭」、種目「家庭分野」は開隆堂を採択することに決定いたしました。

続いて、教科「技術・家庭」、種目「家庭分野」を審議、採決をいたします。

指導室長より「家庭分野」について説明をお願いします。

○指導室長 はい。教科「技術・家庭」、種目「家庭分野」でございます。

「東京書籍」、＜内容＞問題発見・計画立案・実行・評価という、問題解決のプロセスに沿った学習形態を重視した内容になっている。＜表現＞衣生活の採寸についてなど、丁寧な記述になっており、生徒の実習において参考になる内容になっている。＜構成＞地域の食文化の紹介など、生徒にとって分かりやすくなっている。消費生活では事例が多く、生徒に役立つ内容になっている。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞写真が美しく見やすい。内容の配列や題材が教員にとって指導しやすいものになっている。

「教育図書」、＜内容＞事例を数多く取り上げており、実習を行う際の参考資料として幅広く活用できる。＜表現＞資料は豊富であり、写真やイラストが多い。＜構成＞学習指導要領の構成に沿った単元構成になっている。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞分野によっては、イラストを多用している。

「開隆堂出版」、＜内容＞地産地消、環境に配慮した調理、エコクッキング、消費者トラブルなど、中学生の立場で実感しやすい内容になっている。＜表現＞多種多様な字体が使用されている。＜構成＞学習指導要領の構成に沿った単元構成になっている。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞資料や写真が、時代を反映したものを取り入れている。

全体に関する意見。どの教科書も写真やイラストが多くて、とても分かりやすくなっている。衣食住に関して、初めに学べる配列の教科書のほうが分かりやすい。

以上でございます。

○委員長 はい。教科「技術・家庭」、種目「家庭分野」について説明がありました。御審議お願いいたします。小林委員。

○小林委員 新しい学習指導要領につきましては、生きる力を非常に重視されております。また、食育の教育を非常に重視しています。食育を考えますと、調理は非常に重要で、自分で栄養価のあるものをつくって食べるということが出来る、そうした技術を身につけるのが大切だと思います。その観点から、調理実習ということで各社を比較させていただきました。

まず、東京書籍を見せていただきますと、ハンバーグのつくり方でちょっと見ていただきたいのですが、東京書籍は写真が非常に鮮明で、ハンバーグが食欲をかき立てて、自分でつくってみ

たいと思わせるものになっているということが言えると思います。

また、このハンバーグのつくり方の手順なのですが、非常に写真ではっきりとわかります。ハンバーグをこねるときには、ひき肉と卵とタマネギを入れるのですけれども、写真がクリアで、よくわかる。また、ハンバーグを焼くときに、そのまま焼いてしまうと真ん中が焦げてきて、真ん中がよく焼けないので、あらかじめ真ん中をへこませる必要があるのですが、このへこませるといったくぼみをつくる、そういった写真に関しても非常にクリアになっておりまして、他の2社よりもわかりやすいと言えます。

さらに、東京書籍ですが、消費生活にかかわる内容が豊富です。現在の社会において、中学生が消費者として位置づけられていまして、さまざまなリスクにさらされています。したがって、中学生の段階で消費者教育を行い、リスクから身を守るということを身につけることが大切です。

その意味で、東京書籍ですが、消費生活にかかわる内容が多いという特色があると思います。

それと、教育図書ですが、教育図書も非常にすぐれた点がございまして、事例が多く、例えば調理に関して、いろいろと調理実習の献立の数が豊富でございまして、参考資料としてとても役立つと思います。

最後に、開隆堂ですが、この開隆堂に関して言いますと、写真や資料が時代を反映したものになっておりまして、その点は生徒の興味、関心を引くものではないかなと思います。

総合的に判断いたしまして、東京書籍がよいと考えます。

○委員長 青山委員。

○青山委員 家庭では、先ほどちょっと触れましたけれども、学生指導要領の「技術家庭」で言っている基本的な社会で生きていくための必要な知識、基礎知識を身につけるということが必要でして、そういう意味から言うと、もちろん各教科書とも必要条件が満たしているわけですが、1つは食文化等について、3社のうちで東京書籍が一番、この選定調査会の報告にもありますけれども、比較的絵や写真、あるいは手順等の関係でわかりやすいと思います。

それから、やはり選定調査会でも触れていますけれども、消費生活について、いろいろな被害の実例について、東京書籍が一番詳しい。少なくとも、先ほど公民のところでも発言しましたけれども、画期的な消費者契約法について、クーリングオフだけを取り上げたのでは理解してもらったことにならないので、民法原則をここで消費者に有利なように変えたという点について、きちっと記述があるかどうかの問題であって、そういう意味からいうと、相対的に東京書籍がすぐれていると思います。

○委員長 高野委員。

○高野委員 これに関しまして、やはり実際的なことが書かれていると、そこが大きな問題だと思うのですが、今のこの中学生を含めて、身の回りを十分できると、そしていかに工夫したらいい

かということを指導して詳しく書かれているのが、この東京書籍だと考えます。

そして、写真もきれいですし、見やすく、最適であるという点で、東京書籍がベストと考えます。

○委員長 教育長、お願いします。

○教育長 現代のいろんな中に消費者のトラブルがたくさんあります。そういう中で、今、具体的に中学生がかかわるような事例という形で、実際に事例を示しながらアドバイスをする、それと同時に、トラブルによる対処法の適正な判断等について事例がきちんと書かれています。そういう面では東京書籍はいいなと思います。

それと、教育図書も、事例を多く取り上げています。実習を行う際の参考資料ということで、参考にはなりますが、全体的なバランスから考えると、やはりこの東京書籍がわかりやすくいいのではないかなという感じを持ちます。

それから、開隆堂に関しては、エコクッキングとか、環境に配慮した調理とか、それについてはすごく見やすく、中学生の立場で実感しやすい内容になっています。

○高野委員 もう一言いいですか。

○委員長 はい、どうぞ。

○高野委員 東京書籍は、大変やさしいのです。幼児と触れ合おうとか、赤ちゃんにお母様が頼ずりしたり、人間の育ちの始まりなどということを含めて、食育についても十分書かれていますので、もう一度推薦させていただきたいと思います。

○委員長 皆さん、東京書籍ということでございます。今、この家庭分野の教科書を見ていて、自分の中学校のときは、ぞうきを縫ったり、ミシンを扱ったりとかいう教科書だった気がするけれど、今の教科書は、みんな消費者のどうしたらいいかというのが書いてあって、とてもいいなと思います。私も東京書籍を推薦いたします。

皆さん、東京書籍ということでございますが、改めて採択することにお諮りいたします。

種目「家庭分野」について、東京書籍を採択することについて異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 異議なしとのことですので、教科「技術家庭」、種目「家庭分野」は、東京書籍を採択することに決定いたしました。

それでは、続いて、教科「外国語」、種目「英語」の審議・採決に移ります。

○青山委員 委員長。

○委員長 青山委員。

○青山委員 英語につきましては、ここにエントリーしている会社の中に、私が過去に、教科書ではないのですが、書籍を出版した会社がありますので、英語についての審議は、私は参加しない

で、退席させていただくことをお許しいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○委員長 ただいま、青山委員から一時退席の申し出がございました。皆様、よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 では。

〔青山委員退席〕

○委員長 指導室長より「英語」について説明をお願いします。

○指導室長 それでは、教科「外国語」、種目「英語」でございます。

「東京書籍」、＜内容＞日本文化の説明や紹介のトピックがある。＜表現＞本文のイラストは、生徒に親しみやすく、輪郭がはっきりしている。＜構成＞最初に必ず質問事項があり、それから会話をするという構成である。応用編があり、バリエーションに富んでいる。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞長期間の使用に耐えられる製本である。

「開隆堂出版」、＜内容＞リーディング中心で長文が掲載されている。繰り返して練習する場面を設定している。＜表現＞イラストが小さいものがある。各単元の基本対話や発音のポイントなどが理解しやすい。＜構成＞各章のテーマが独立している。見開きの左ページに練習、右ページに本文を置いて構成に工夫がある。＜地域性＞特になし。＜使用上の便宜＞版型が大きくて重い。1年にアクションカードがついている。長期間の使用に耐えられる製本である。

「学校図書」、＜内容＞言語材料や言語活動の分量は適正である。＜表現＞点字ボランティアの内容が多く出ている。写真、イラストは分かりやすい。＜構成＞1年で一般動詞を導入した後にb e動詞を扱い、また一般動詞に戻る配列である。＜地域性＞浅草の記述があり、荒川区の中学生に身近な内容になっている。＜使用上の便宜＞印刷は鮮明で、長期間の使用に耐えられる製本である。

「三省堂」＜内容＞コミュニケーションに関する内容が多い。ミニプロジェクトワーク（自分史やスピーチ）がある。＜表現＞生活の中で実際に使うトピックを選んでいる。日本の伝統的な文化を扱っている。登場する外国人が多様化している。＜構成＞文法の要点の記述がある。4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）のバランスが取れている。＜地域性＞隅田川の花火の浮世絵が掲載されている。＜使用上の便宜＞印刷は鮮明で、長期間の使用に耐えられる製本である。

「教育出版」＜内容＞登場するキャラクター等、子供たちの興味・関心を引き出す視点がある。＜表現＞写真は鮮やかで分かりやすい。＜構成＞4技能がバランスよくまざり合っているが、他社で3年に配当される言語教材を幾つか2年に配当している。＜地域性＞浅草の記述があり、荒川区の中学生に身近な内容になっている。＜使用上の便宜＞写真が多く掲載されているが、食べ物の写真が目立つ。長期間の使用に耐えられる製本である。

「光村図書出版」＜内容＞リーディング中心で長文が掲載されている。＜表現＞Unit扉の写真が学習に役立つ。イラストはくっきりした色と輪郭で分かりやすい。＜構成＞最初に詩がある。1～3年の継続した物語を扱っている。＜地域性＞浅草の記述があり、荒川区の中学生に身近な内容になっている。＜使用上の便宜＞Unit扉の写真は学習に役立つ。巻末の資料も適切である。長期間の使用に耐えられる製本である。

全体に関する意見。荒川区は小学校1年生から英語に親しんでいるので、中学校でさらにその力を伸ばすという円滑な接続が大切な視点である。

以上でございます。

○委員長 教科「外国語」、種目「英語」について説明がありました。御審議をお願いいたします。小林委員。

○小林委員 英語ですが、それぞれ6社ですが、工夫がなされておりまして、なかなか甲乙つけがたいところがございます、迷うところでもあります。しかしながら、全体として考えますと、学校図書、三省堂がいいと思います。

学校図書ですが、まず、1点目として、現代的な話題が非常に充実していると。点字ボランティアのところで、教科書選定調査会の調査研究資料にもあるのですが、それ以外にも国際協力であるとか、そういった現代的な話題が充実していることが指摘できます。

2点目として、浅草の記述がありまして、荒川区の中学生には身近であると言えます。それと、言語材料や言語活動の分量が適正であるということで、調査研究資料にも指摘がされているのですが、新出単語数に関しましても、それほど多くないというか、ちょうど学習の言語活動の分量としては適正であると思っております。

荒川区の学力調査結果22年度を見せていただきますと、若干英語に関しての理解が課題と思われるので、その意味では、学校図書は、なかなかいいのではないかと考えております。

次に、三省堂についてらせていただきますと、まず1点目ですが、全体としてみると、読む、書く、話す、聞くといった4つの技能のバランスが非常にとれている教科書といった特徴がございます。教科書選定調査会の報告にも、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことのバランスがとれているとことが指摘されております。

2点目ですが、話すこと、また、書くことを重視しておりまして、表現力を鍛えるということを重ねております。それは、新しい学習指導要領の基本的な方針に沿ったものです。

具体的に見ていきますと、話すことにかかわる教材数が多く、スピーチが充実しているといえます。

また、ミニプロジェクトというのがございまして、自己紹介、友だち紹介、自分史などがございまして、これなど外国の人と英語を話すときに、すぐ使える内容でございます。

日本の文化、生活にかかわるもの、例えばちょうちんや着物といったものを英語で紹介しようという内容もございまして、これからのグローバル社会において、日本の文化を英語で表現し、世界に発信することが必要となります。その意味ですぐれていると思っております。

そして、さらに3点目として、文法の要点の記述が非常によいという点がございまして、絵などを用いながら、わかりやすい文法の記述となっております。

そういった点を踏まえつつ、荒川区の実態に目を向けてまいりますと、荒川区では英語が小学校から導入されていまして、小学校から英語を学びながらも、学力調査の結果を見ますと、中学校になると英語離れが進んでいるように思われます。これはさまざまな要因がありますが、小学校では、どちらかというところ、コミュニケーション重視の英語の指導が行われていると。それに対して、中学校は、どちらかというところ、受験英語に重点が移行していきますが、その接続が余りうまくいってないということがあるのかもしれない。その意味で、コミュニケーションと文法等をバランスよく重視しているという点で、三省堂が望ましいと考えております。

○委員長 高野委員、お願いします。

○高野委員 私も三省堂を支持いたします。といいますのは、読む、話す、聞く、書く、総合的にバランスよく書かれております。もう1つ重要なことは、話題が新しく、社会現象も、新しい社会現象を英語で学ばせるというのが非常に面白いと思います。そして、「Calendar of The earth」とか、それで「Vulture and Child」と、大変なすばらしいピュリッツァー賞をとった写真が掲載されて、生徒たちの興味を引く話題を豊富にしております。もっと重要なことは、やはり中学生の高校受験ということを考えまして、セクションごとに文法の解説があったり、大変親切にできておりますので、そういう面において、私は三省堂をお勧めしたいと思います。

○委員長 教育長、お願いします。

○教育長 私も、全体のバランスからいって、三省堂を推薦いたします。小学校でコミュニケーションの感じで、小学校1年生では、88%の子が英語が好きだと言っているのですが、それが中学校に入ったとたん60.9%にガクンと20%近く落ちてしまうということがあり、原因としては受験英語になってしまうからです。だから、今までは、テストがなくて、コミュニケーションを十分活用して、楽しい英語から、急に中学校に入ると中間テストがあってガクッと下がり、期末テストがあってまたガクッとくるという状況です。今の小学生の発音ってすごく立派なのです。だから、ワールドスクールなんか行くと、本当にすばらしいと思うのですが、今までの日本の英語教育の改良を、基本的にやっていく必要があるという感じがします。だから、テストの点数だけで評価するのではなく、興味・関心・態度・意欲などを大切に、英語を楽しみ、もっと自由に表現し、自由に自分の意思を伝えたいとか、相手の言っていることが理解できるような英

語を目指していく中で、三省堂のほうの話すこと、読むこと、書くこと、聞くことがバランスよく配分されていると思います。そういう意味で、三省堂の教科書を使うことによって、荒川区の子供がもっと英語が好きになるようなバランスがよいのではないかと思います。

○委員長 皆さん、三省堂がよろしいということで、3人決まってしまったのですが、私も全体的に三省堂がよろしいかと思います。荒川区は小学校から英語を使っておりますので、その延長線上で入りやすいということで、とてもわかりやすい教科書だと思うのです。「NEW CROWN」の三省堂も2年生のところの表紙が何となく汐入を彷彿とさせるような絵でありまして、ちょっと身近に感じるかなとも思いました。

皆さん、4人とも三省堂でございました。改めて、三省堂を採択することについてお諮りをいたします。

種目「英語」については、三省堂を採択することに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 異議なしとのことですので、教科「外国語」の種目「英語」は、三省堂を採択することに決定しました。

〔青山委員着席〕

○委員長 それでは、以上で予定しておりました9教科15種の採択が終了をいたしましたので、改めて確認をいたしたいと思います。事務局より採択結果の読み上げをお願いします。

○指導室長 それでは、結果について読み上げさせていただきます。

教科「国語」、種目「国語」、三省堂でございます。

教科「国語」、種目「書写」、大日本図書でございます。

教科「社会」、種目「社会地理的分野」、帝国書院でございます。

教科「社会」、種目「社会歴史的分野」、東京書籍でございます。

教科「社会」、種目「社会公民的分野」、東京書籍でございます。

教科「社会」、種目「地図」、帝国書院でございます。

教科「数学」、種目「数学」、東京書籍でございます。

教科「理科」、種目「理科」、東京書籍でございます。

教科「音楽」、種目「音楽（一般）」、教育芸術社でございます。

教科「音楽」、種目「音楽（器楽合奏）」、教育芸術社でございます。

教科「美術」、種目「美術」、日本文教出版でございます。

教科「保健体育」、種目「保健体育」、大日本図書でございます。

教科「技術・家庭」、種目「技術・家庭、技術分野」、開隆堂出版でございます。

教科「技術・家庭」、種目「技術・家庭、家庭分野」、東京書籍でございます。

教科「外国語」、種目「英語」、三省堂でございます。

以上でございます。

○委員長 採択結果は以上のとおりとなりました。

なお、採択結果につきましては、本委員会の終了後に公開いたしますので、よろしくお願いたします。

以上で議案第33号「平成24年度から使用する中学校教科用図書の採択について」の審議は終了いたしました。ありがとうございました。

続きまして、議案第34号「平成24年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」を議題といたします。

事務局より議案の説明をお願いいたします。

○指導室長 それでは、平成24年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について御説明申し上げます。

小中学校の特別支援学級で特別な教育課程を編成する場合は、学校教育法附則第9条、同法施行規則第139条の規定により、教科により、当該学年用の文部科学省検定済教科書を使用することが適当でないときには、当該学校の設置者の定めるところにより、他の適切な教科書を使用することができることとなっております。

特別支援学級で使用する教科書は、一般図書と呼ばれておりまして、本日、机上に参考としてすべてではありませんが、置いております。本区の各小中学校の特別支援学級で使っております実物でございます。各学校が調査研究を行う場合には、東京都教育委員会が作成しました特別支援教育教科書調査研究資料を参考に調査を行いますが、今回、各学校から提出されました調査研究結果を事務局で確認いたしましたところ、すべてこの調査研究資料にある図書から選択されております。本日配付させていただきました平成24年度荒川区立学校特別支援学級で使用する一般図書の調査のまとめに集約してございます。

小中学校の一般図書につきましては、採択された図書のリストの中から、各学校において一人一人の児童生徒の状況に応じて使用するものを選択することとなります。御審議のほどよろしくお願いたします。

○委員長 ただいまの説明について、御質問、御意見ございますか。よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 それでは、原案どおり採択することに意義はございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 異議ないものと認めます。

議案第34号「平成24年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」は原案どお

り採択することに決定いたしました。

本日の審議事項は以上でございます。

続いて、陳情に移ります。

既に委員の皆様へ御報告の上、継続審査としております3件の陳情を議題といたします。

特にこの陳情の扱いについて、委員より意見等ございますか。教育長。

○**教育長** 陳情3件は、いずれも今回の教科書採択に関するものでございます。

これまで、各委員は、これらの陳情や事務局に提出された要望文書、さらには教科書展示に対し寄せられたアンケート等にも事前に目を通し、公平な立場で各社の教科書を調査研究し、本日、採択を行ったところです。

そのため、改めて個々の陳情に対し、その適否を論議することではなく、教育委員会といたしましては、それらを受けとめた上で、慎重に審議・協議した結果として、本日の採択結果をお示しすることにより、陳情に対するお答えとすることが適切ではないかと考えますが、いかがでしょうか。

○**委員長** ほかの皆さん、異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○**委員長** 他の委員の皆さんも異議がないとのことですので、そのように取り扱いをすることといたします。

本日予定しておりました案件は以上でございますが、その他の事項として、事務局より何かございますか。

○**教育総務課長** 特にございません。

○**委員長** それでは、以上をもちまして、教育委員会第1回臨時会を閉会いたします。

なお、特段の議題がないようですので、次回8月12日の定例会は休会といたしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

本日は、長時間にわたり、ありがとうございました。

—了—